高知県香南市発掘調査報告書　第19集

久保田（くぼた）遺跡

—市道久保田線改良工事に伴う発掘調査報告書—

2022.2

香南市教育委員会

久保田遺跡

―市道久保田線改良工事に伴う発掘調査報告書―

2022.2

香南市教育委員会

序

本書は，香南市市道久保田線改良工事に伴い，香南市教育委員会生涯学習課が平成19年度に発掘調査を実施した久保田遺跡の発掘調査報告書です。

平成18年3月，旧香美郡赤岡町・香我美町・野市町・夜須町および吉川村の5町村が合併し，香南市が誕生しました。香南市は，県中心部や他県と結ぶ空の玄関口からも近いベッドタウンとして，幅広い世代の人々が暮らす街です。

本遺跡が所在する香我美町地区は，山南地区や徳王子地区を中心に工業団地の整備や企業誘致が進み，地域に根差した産業を基盤とした暮らしやすい街へと発展を遂げています。

令和2年には香南市新庁舎が落成し，市民の暮らしを支える中枢として新たなスタートを切りました。平成21年より事業を続けてまいりました香南市文化財センターですが，条例整備により，市の出先機関として一層の充実を図ることとなりました。

本報告書が多くの方々の目に触れ，地域の歴史を探求する上での資料となり，失われゆく埋蔵文化財の保存と，記録という形での後世への伝承という大きな目的の達成への一助となることを願ってやみません。刊行に至るまでに賜りました地域の方々のご理解と関係諸氏のお力添えに対し敬意を表するとともに，厚くお礼を申し上げます。

令和4年2月

高知県香南市教育委員会

教育長　入野　博

例　言

1. 本書は，香南市市道久保田線改良工事に伴い，平成19年度に香南市教育委員会が実施した久保田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 久保田遺跡は，高知県香南市香我美町下分に所在する。
3. 発掘調査は１ヵ月にわたって実施し，発掘調査面積は200㎡である。
4. 調査期間は，平成19年５月１日から同年５月31日にかけて発掘調査を行い，併せて基礎整理を平成19年度に行った。また，本報告書刊行および整理業務を令和元年４月１日から令和３年12月28日にかけて実施した。
5. 発掘調査・整理作業時の香南市教育委員会生涯学習課の体制は以下の通りである。

平成19年度	調査員	神明　裕一	（香南市教育委員会　生涯学習課）	
		更谷　大介	（　〃　）	
		溝渕　真紀	（　〃　）	
令和元年度	課長	小松　靖生	臨時職員	齋藤　美幸
	係長	竹中　ちか		澤田　佐世
	主監調査員	松村　信博		高橋　加奈
	嘱託員	坂本　憲彦		髙橋　由香
		宮地　啓介		藤方　正治
		横山　藍		藤原　ゆみ
				松田　克純
				宮本　幸子
令和２年度	課長	猪原　加江	会計年度任用職員	齋藤　美幸
	係長	竹中　ちか		高橋　加奈
	主査調査員	横山　藍		髙橋　由香
	再任用職員	澤田　秀幸		藤原　ゆみ
	会計年度任用職員	松井　喬行		山﨑　佐世
		松田　克純		依光　美佐子
		宮地　啓介		
令和３年度	課長	猪原　加江	会計年度任用職員	齋藤　美幸
	係長	竹中　ちか		高橋　加奈
	主査調査員	横山　藍		髙橋　由香
	再任用職員	澤田　秀幸		藤原　ゆみ
	会計年度任用職員	松井　喬行		山﨑　佐世
		松田　克純		依光　美佐子

6. 本書の刊行に係る作業につき，平成19年度の発掘調査における土層の観察および写真撮影については神明・更谷・溝渕が行い，遺物実測は齋藤・宮本・山﨑が行った。令和元年度に遺物観察については坂本が行い，令和２年度に執筆・編集・写真撮影については松井が行った。

7. 遺構については，SD（溝）・P（ピット）・SX（性格不明遺構）・SR（自然流路）とし，遺構番号は必要に応じて通し番号を付した。掲載している遺構図の縮尺は，SD・SX・SRをS=1/40で，PについてはS=1/20で作成し，それぞれに記載しており，方位（N）は世界標準座標方眼北である。
8. 各種遺構図・土層図，および本文中に記載された高さを示す数値は，T.P.（東京湾平均海面）を基準とする標高値である。
9. 遺物については，S=1/3とし，各遺物にはスケールバーを掲載している。
10. 発掘調査作業および整理作業を行っていただいた方々に感謝する。また，報告書作成にあたっては，香南市文化財センター諸氏の協力と援助を得た。
11. 出土遺物について，池澤俊幸氏・吉成承三氏（（公財）高知県埋蔵文化財センター）・藤方正治氏に助言をいただいた。記して感謝する。
12. 調査の実施にあたっては，地元の方々の絶大な協力と援助を得た。
13. 出土遺物の注記は，出土略号を07－KKKとし，図面・写真資料ともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章　調査に至る契機と経過 1
1. 調査に至る契機と経過 1
2. 試掘確認調査の概要 2
3. 久保田遺跡本発掘調査 調査日誌抄 5
第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境 7
1. 地理的環境 7
2. 歴史的環境 9
第Ⅲ章　調査成果 13
1. 調査の方法 13
2. 基本層序 14
3. 検出遺構と出土遺物 17
⑴ 溝 17
⑵ ピット 19
⑶ 性格不明遺構 20
⑷ 自然流路 21
⑸ 包含層出土遺物 22
第Ⅳ章　総括 25
1. 久保田遺跡の位置付け 25
⑴ 調査成果のまとめ 25
⑵ 中城跡と久保田遺跡 26
2. 香南市内遺跡出土の貿易陶磁器 27

挿図目次

図１　四国における久保田遺跡……1
図２　試掘トレンチ位置図……2
図３　試掘トレンチ柱状土層図……3
図４　TR1 平面図……3
図５　TR2 平面図……4
図６　TR2 包含層出土遺物実測図……4
図７　香南市の地質……7
図８　久保田遺跡周辺の地形分類……8
図９　久保田遺跡周辺の遺跡……11
図10　久保田遺跡調査区位置図……13
図11　調査区西壁・北壁セクション……14
図12　調査区東壁セクション……15
図13　遺構全体図……16
図14　SD1 遺構図……17
図15　SD2 出土遺物実測図……17
図16　SD5 出土遺物実測図……18
図17　SD2・SD3・SD4・SD5 遺構図……18
図18　P1・P2・P3・P4 遺構図……19
図19　SX1 遺構図……20
図20　SX1 出土遺物実測図……21
図21　SR1 立面図……21
図22　SR1 出土遺物実測図……22
図23　包含層出土遺物実測図 1……23
図24　包含層出土遺物実測図 2……24
図25　久保田遺跡出土遺物の時期区分……25
図26　久保田遺跡周辺のホノギ図……26
図27　中氏所領地（城地周辺の一部）……26
図28　香南市内遺跡出土貿易陶磁器の数量分布……28
図29　香南市内遺跡出土貿易陶磁器の器種別法量構成および時期区分……29

表目次

表１　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器 1……30
表２　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器 2……31
表３　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器 3……32

表４　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器４ 33

遺構計測表目次

遺構計測表 37

遺物観察表目次

遺物観察表１　１ ～ 24 41
遺物観察表２　25 ～ 48 42

写真図版目次

図版１　調査区北部遺構完掘状態（南西より），調査区南部遺構完掘状態（北より）
図版２　調査区北部東壁（西より），調査区全景および作業風景（北より）
図版３　瓦質土器三足脚付き羽釜(26)出土状態，SR1 石製品砥石(9)および須恵器甕(7)出土状態
図版４　調査区北部遺構検出状態（東より），SD2 周辺遺構完掘状態（北より），調査区北部遺構完掘状態（南西より），調査区北部遺構完掘状態（南より），SR1 完掘状態（南より），SR1 周辺遺構完掘状態（南東より），SX1 完掘状態（南より），SX1 周辺遺構完掘状態（北より）
図版５　遺構完掘状態（南より），調査区東壁（北西より），調査区西壁（北東より），調査区南西部サブトレンチおよび西壁（南東より），SX1 土器出土状態，Ⅳ層 土師器出土状態，調査風景（北より），調査および開発工事終了後風景（北東より）
図版６　土師器（甕），土師質土器（杯），炻器
図版７　弥生土器（甕），須恵器（蓋・甕），土師質土器（杯），石製品（砥石）
図版８　須恵器（杯），東播系須恵器（捏ね鉢），土師質土器（手捏ね皿・皿）
図版９　土師質土器（皿），瓦質土器（羽釜）
図版10　瓦質土器（羽釜・三足脚付き羽釜・鍋・鉢）
図版11　青磁（碗），白磁（碗），備前（甕）
図版12　白磁（皿），古瀬戸（天目茶碗），土製品（土錘）

第Ⅰ章　調査に至る契機と経過

1. 調査に至る契機と経過

久保田遺跡の所在する香南市香我美町は，土佐湾に面する沿岸部と旧香美郡・長岡郡に広がる香長平野の東部を占める平野部，および秋葉山・熊王山などの連峰が座す山間部からなる，北東に長い地区である。平成 18 年 3 月の市町村合併により，旧香美郡赤岡町・香我美町・野市町・夜須町および吉川村の 5 町村が合併し，香南市が誕生した。

遺跡の立地する香我美町下分地区は，中ノ村・曽我地区から稗地地区を東西に結ぶ県道 230・231 号線（稗地中村線），および徳王子地区と山北地区を南北に結ぶ県道 227 号線が走り，周辺は工業地や宅地の開発に伴い道路拡幅など生活の利便性を高める開発が進んでいる地域である。

今般，香我美町下分久保田地区に近接する県道 230 号線の北側の区画における自衛隊宿舎建設計画に併せて，建設地の西側を南北に延びる生活道である市道久保田線の改良工事が行われることとなった。この市道の工事に伴い，道路に隣接した南北に流れる水路についても改修工事が行われることとなった。市道は南側の県道に交差して終点となるが，水路については県道を越えた南側にも延長しており，この部分についても改修を行うこととなった。

平成 18 年 8 月および 12 月に市道久保田線建設に伴う試掘確認調査を実施，さらに平成 19 年 1 月に自衛隊宿舎建設に伴う試掘確認調査が行われた。調査の結果，遺構･遺物が一定程度確認され，この地周辺が埋蔵文化財包蔵地である可能性が指摘された。このため，県道南側の水路改修が予定される土地においても試掘確認調査を行う必要が生じた。平成 19 年 1 月に実施された南側水路の地区における試掘確認調査の結果については第Ⅰ章第 3 節で述べるが，当該地区においても埋蔵文化財の遺存が確認されたため，工事に先立ち本発掘調査を実施することで調整を行うこととなった。本発掘調査は平成 19 年 5 月に, 1 ヵ月の期間を設けて実施した。この発掘調査の成果をもって，当該地区および周辺が周知の埋蔵文化財包蔵地「久保田遺跡」として認定された。本報告書は，当該地区における試掘確認調査および本発掘調査の成果をまとめたものである。

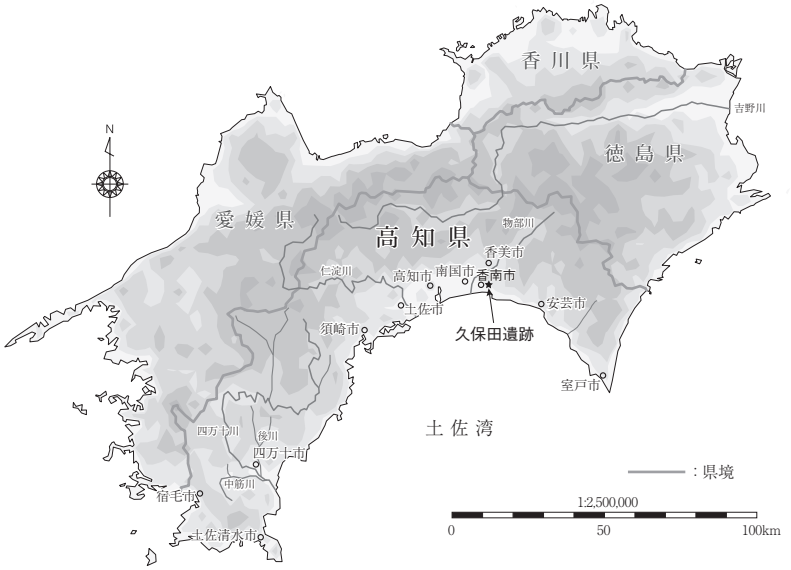


図 1　四国における久保田遺跡

2. 試掘確認調査の概要

久保田遺跡の試掘確認調査は，平成 19 年 1 月，市道久保田線改良工事に伴う水路整備工事の行われる範囲のうち，県道 230 号線より南の区画について実施した。図 2 に示す調査対象地内の 2 カ所に試掘トレンチを設定し，機械力および人力により掘削・調査を行った。以下，各試掘トレンチにおける成果の概要を記す。

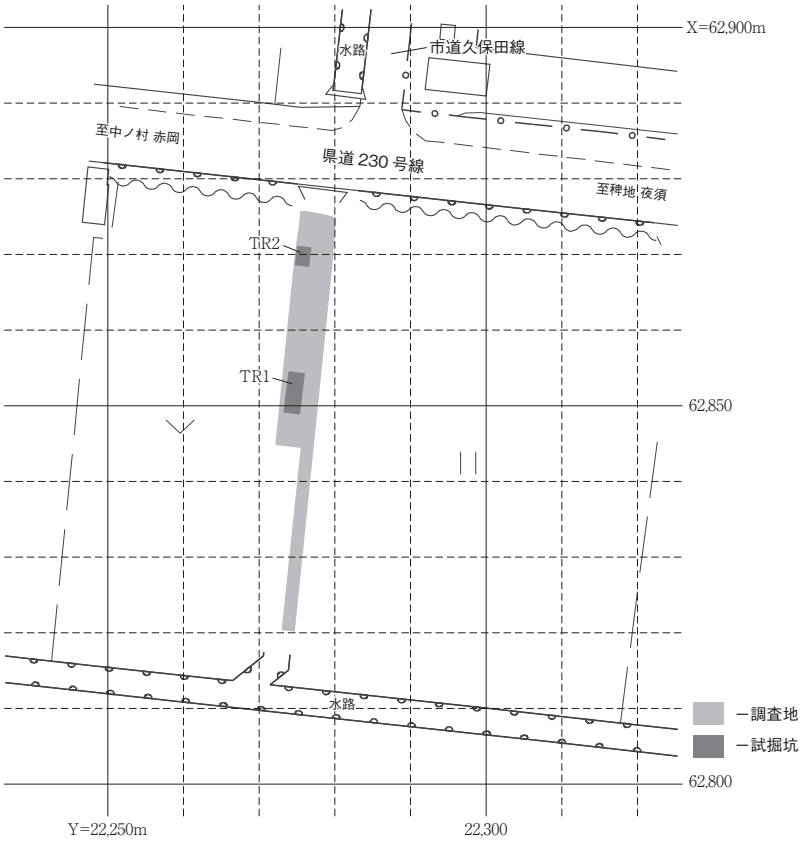


図 2　試掘トレンチ位置図

TR1（図 4）

調査対象地の南側に設定したトレンチで，対象地の区画に沿う南北 5.6m，東西 2.3m の長方形状である。地表面標高 10.6m を測る表土の 20㎝の堆積下は，層厚 18㎝程度の黒褐色土が混じる灰色～黄灰色シルトが堆積しており，以下は灰黒色～黒色の厚い粘土質シルト層，確認最深部は青灰色砂礫が堆積している状況であった。また，表土下 100㎝程度の深さから湧水が見られた。

層位的に掘り下げ精査した結果，表土下約 40㎝（標高 10.2m）において，確認長 0.7m，確認幅 2.2m の溝状の遺構が 1 条確認された。これは後の本発掘調査でこれより北約 20m の位置で検出された自然流路（SR1）と同様の遺構の一部の可能性が考えられるが，試掘確認調査時点では溝（SD）として記録している。この遺構の検出面からの深さは 10㎝余り（床面標高 10.1m）で，出土遺物は土師器（土師質土器の可能性を含む。本節においては以下同）の口縁部片および胴部片をはじめとする破片・細片が少量出土した。出土遺物に図示しうるものはなかった。

土層の堆積状況を確認するため，試掘トレンチ内の北東側にサブトレンチを設定し，表土下 1.4m，遺構検出面からの深さ 1.0m（掘削底面の標高は 9.2m）まで掘り下げた。堆積土層の記録は，このサ

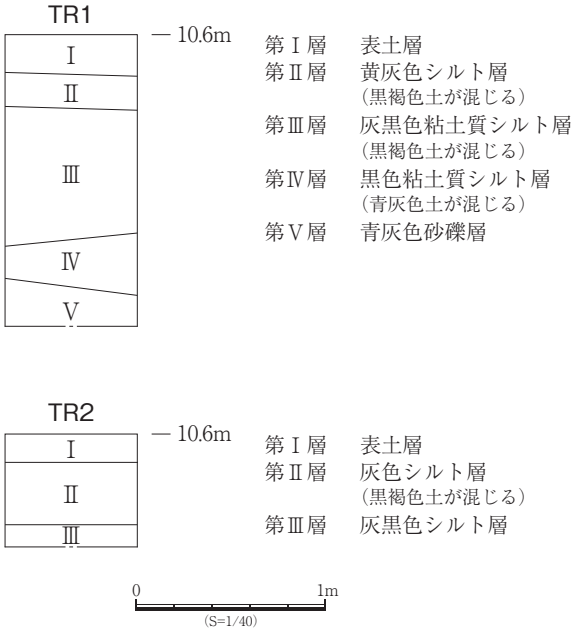


図３　試掘トレンチ柱状土層図

TR2（図５）

調査対象地の北側に設定したトレンチで，対象地の区画に沿う南北 2.7m，東西 1.9m の長方形状である。地表面標高 10.6m の表土 15cmの堆積下は，黒褐色土が混じる灰色シルトが 30cm程度堆積し，以下は灰黒色シルトが堆積している状況が確認された。

表土下 30 ～ 40cm深さ（標高 10.2m ～ 10.3m）において土坑１基，溝２条，ピット２個が確認された。サブトレンチ掘削による下層確認は行っていない。確認された土坑は長さ 1.6m，確認幅 0.9m の平面長方形状で，遺物の出土は見られなかった。溝は南北溝と東西溝が，先後関係は不明であるが切り合っている。南北溝は確認長 2.0m，幅 0.25 ～ 0.4m，深さ 10cm程度である。遺物は土師器細片が少量出土した。東西溝は確認長 1.9m, 確認幅 0.5m, 深さ 10cm程度で，遺物は土師器細片，須恵器破片が少量出土している。また，この東西溝の東側床面からピットが検出された。平面形状は規模 0.4m × 0.25m の楕円形で，深さは東西溝の床面から 9 cmを測る。このピットから遺物は出土していない。TR2 の西壁際においてピットの一部が検出されブトレンチを含む TR1 東壁として記録した。堆積土層の概略を図３に柱状図として示している。このサブトレンチからは，少量の土師器細片のほか，木片や樹種不明の種子が出土している。

TR1 の遺物包含層からは（第Ⅱ層および第Ⅲ層），土師器，須恵器，陶器の破片・細片のほか，平瓦片や木片が少量出土した。これらの遺物に図示しうるものはなかった。

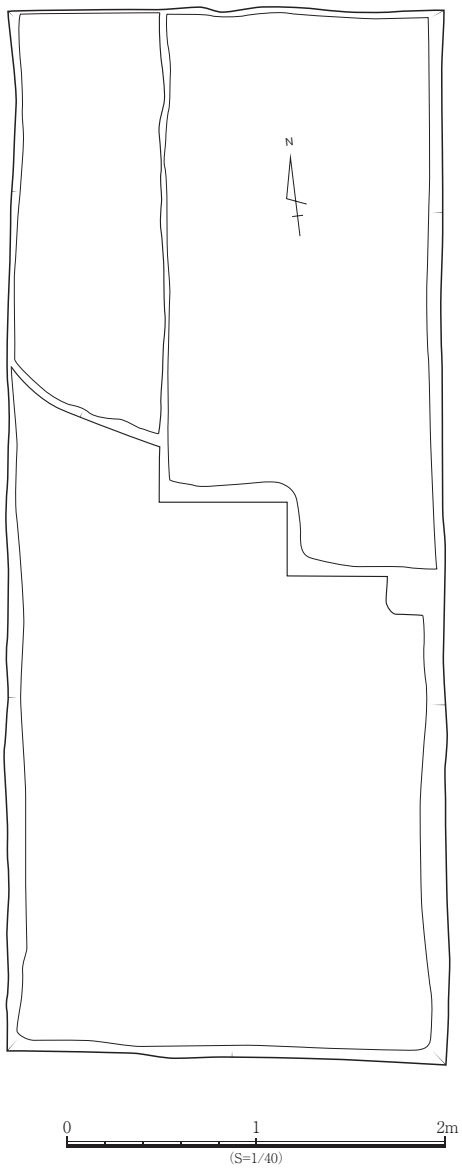


図４　TR1 平面図

た。平面形状は径 0.3m の円形で，深さは 10cmである。遺物は出土していない。

TR2 の遺物包含層（第Ⅱ層および第Ⅲ層）からは，土師器細片，須恵器（蓋および高杯脚部），瓦質土器（釜あるいは鍋の脚部），炻器，土錘，陶器（碗体部）が出土している。このうち，炻器 1 点について図示した。1 は炻器の底部である。底部外面にヘラ状工具の圧痕が残る。内外面灰白色で，胎土は白色粒を含む。底部よりも体部の器壁が厚い。底部内面は剥離している。

試掘確認調査の結果，土坑，溝，ピットといった遺構が検出され，これらの遺構および遺物包含層から土師器や須恵器をはじめとする遺物が一定量出土したことから，当該地において埋蔵文化財が残存している可能性が高いと判断された。したがって，予定される開発工事に先立ち，平成 19 年 5 月に本発掘調査を実施する運びとなった。

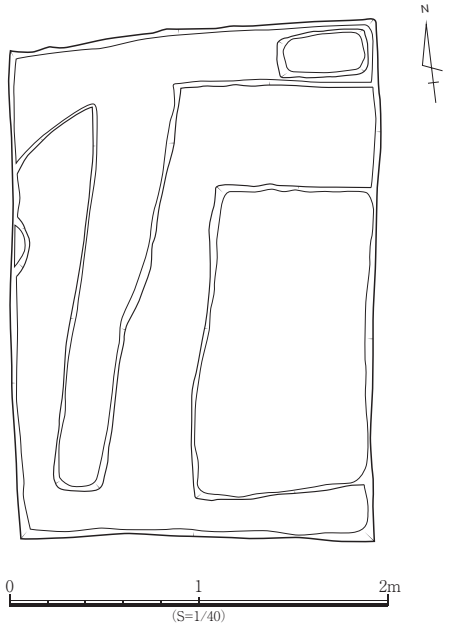


図 5　TR2 平面図

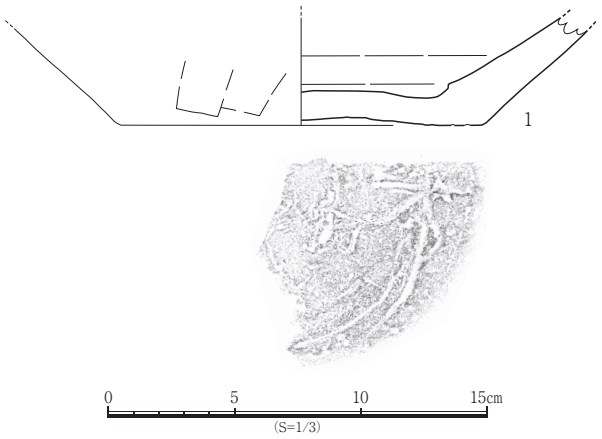


図 6　TR2 包含層出土遺物実測図

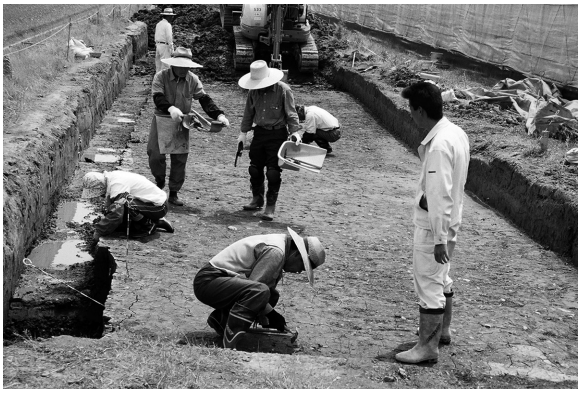
3. 久保田遺跡本発掘調査 調査日誌抄

本発掘調査は神明裕一，更谷大介，溝渕真紀，発掘作業員７名，重機オペレーター１名の体制で行った。調査日誌の記録は溝渕が行った。

平成 19 年

5 月 2 日（水）

調査開始。調査区東端に南からサブトレンチを掘削する。



5 月 8 日（火）

サブトレンチに溜まった雨水を抜く。サブトレンチを掘削。調査区東壁の土層を確認する。

5 月 9 日（水）

平板により調査区測量。調査区北側から，表土よりⅣ層中層深さまで掘削。Ⅳ層から瓦質土器（鍋か羽釜の脚），土師器，須恵器，土錘などの遺物（いずれも摩耗している）が出土。調査区北側で溝状，ピット状の遺構を検出。

5 月 10 日（木）

調査区北壁および東壁の土層断面図を作成。前日検出された遺構を掘削する。Ⅳ層下層まで掘削。土錘 10 点および摩耗した土器細片が少量出土。

5 月 11 日（金）

調査区西壁の土層を確認。北側で検出された遺構の南側が落ち込みとなっており，手作業により粘土層まで掘削。全体写真撮影。

5 月 14 日（月）

調査区北側の遺構（溝，ピット）を完掘。平面実測。南側落ち込み部を掘り下げ，円形の遺構とみられるものを検出（のち SX1 に認定）。

5 月 15 日（火）

前日に引き続き遺構検出作業。

5 月 16 日（水）

調査区を東西に延びる自然流路（SR1）を検出・掘削し，図面および写真により記録する。調査区南側を引き続き遺構検出作業。

5 月 18 日（金）

SR1 をレベル測量後，さらに砂礫層まで掘り

下げる。調査区南側を引き続き遺構検出作業。

5 月 21 日（月）

SR1 および SX1 を完掘し，平面実測およびレベル測量を行う。調査区西壁の土層断面図を作成。SX1 の南側は手作業で掘り下げる。それより南は重機により掘り下げる。遺物の出土はほとんど見られないため，機械掘削による確認で差し支えないと判断。

5 月 22 日（火）

SX1 より南の調査区東壁際に落ち込みを確認するが，遺物の出土は見られない。東壁際の下層を確認する。

5 月 23 日（水）

SX1 より南の調査区西壁際にサブトレンチを掘削し，下層を確認する。Ⅳ層より下に生活を示す痕跡は認められない。本日をもって調査終了とする。

5 月 29 日（火）

重機による埋め戻し作業。

発掘調査終了。

第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

久保田遺跡を擁する香南市香我美町は高知県中部東寄りに位置し，土佐湾に面する東西約 3㎞の沿岸部から香長平野東部に位置する平野部を経て，約 20㎞北東に続く内陸部は秋葉山（490m），長者が森（772m），熊王山（713m）などからなる山岳地帯である。面積は 58.89㎢，人口約 6,000 人（2020 年時点）が暮らす町で，沿岸部の岸本地区は人口密度が高く，漁業のほか第三次産業に従事する人も多い。徳王子地区や山北地区，山南地区といった中部の平野部では農業が盛んであり，また工業団地の整備も進んでいる。一方で西川地区や東川地区をはじめとする山間部は過疎化が進んでいる。現在は香南市に合併されているが，旧香美郡香我美町は昭和 30 年（1955 年）4 月 1 日に岸本町・徳王子村・山南村・山北村，および東川村の一部と西川村の一部が合併して発足した自治体であった。本遺跡の所在する香我美町下分久保田地区は，旧山南村に属していた場所である。

久保田地区周辺の地形は，香宗川北岸の標高 10m 前後の沖積低地の背後（北側）に，かつて中氏の城が存在した標高約 30m の低丘陵が現香我美庁舎北西の標高 56m の峰に向かって伸び，香宗川を隔てた南には国吉城が存在した標高 69m の峰をはじめとする丘陵が南東方向に伸びる景観である。久保田遺跡は，中城跡の峰から直線距離 180m 程度南東の山裾～低平地，標高 10 ～ 11m を測る位置に所在する。

香我美町における主要な河川として香宗川水系があり，その流れは古くから流域に暮らす人々の生活を潤してきた。香宗川は，その源を北東山間部の別役峠（292m）に発し，途中秋葉山より流れる山北川と合流しながら南下，河口から約 1㎞の地点に発達した浜堤に遮られる形で向きを変え，赤岡町の市街地を周回しながら，龍河洞方面から流下した烏川と合流したのちに土佐湾へと注ぐ，流路延長 20.2㎞，流域面積 58.8㎢の二級河川である。流域は温暖な太平洋気候で年間降水量は約 2,100 ㎜である。全国的に見れば多雨地帯といえるが，高知県下では標準的な雨量の地域である。香宗川に生息する魚類は，主にコイ，フナ，オイカワ等が確認されており，重要種ではニホンウナギやボウズハゼの生息が確認されている。自生植物は，水際においてカヤツリグサ科やヨシなどの群落が，出水の影響を受けやすい場所においてはヤナギタデ，オオイヌタデなどの一年生の植物が確認されているが，近年は外来種による侵略も懸念されている。

香南市の地質帯は，北東から南西方向に走る仏像構造線と呼ばれる断層（低角逆断層または衝上断層）を境に，南側の四万十帯北帯から圧縮負荷を受けた北側の秩父帯南帯が四万十帯の上に衝上する構造となっている。香宗川流域の大部分の地質は四万十帯北帯に属し，一部が秩父帯南帯の三宝山帯に属す。久保田遺跡周辺は四万十帯北帯に属している。四万十帯北帯は主に白亜系のタービダイト（土砂を大量に含む混濁流が繰り返し発生して

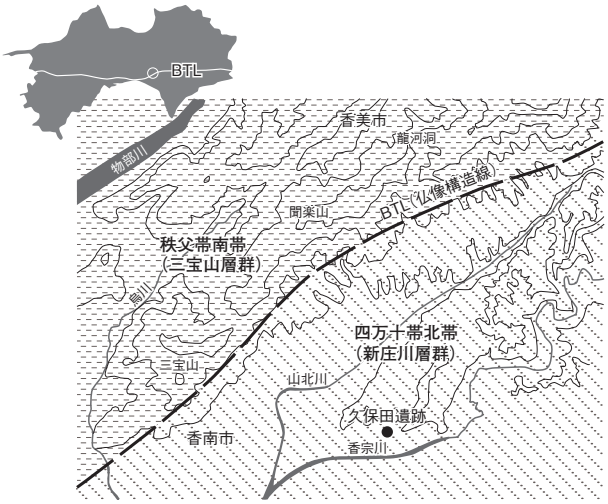


図 7　香南市の地質

堆積した砂岩泥岩互層）が分布し，下位の新庄川層群（北側，より古い地層）と上位の安芸層群（南側，より新しい地層）からなる。久保田遺跡周辺は新庄川層群の範囲に含まれ，その基盤岩はタービダイトのほか石灰岩やチャートからなる。香宗川に沿った平野部は，この基盤岩を被覆して沖積層などの未固結堆積物が分布している。

香宗川は低平地部において川幅が狭く，河口付近で大きく蛇行しているため河床勾配が全体として緩やかで，昭和期には台風や豪雨のたびに家屋浸水を伴う水害が発生していた。近年は河川の改修により大規模な浸水被害は発生していないが，内水氾濫等による浸水被害はしばしば報告されている。遺跡周辺の香宗川の旧河道をみると，細い川筋が蛇行・分岐・合流を繰り返しながら緩やかに流下していた様子が見て取れ，かつての遺跡周辺の土地は，点在する微高地を残して大部分の低平地が度重なる河川の氾濫により水没し，運搬された土砂の堆積により形成された平野であったことが推定できる。

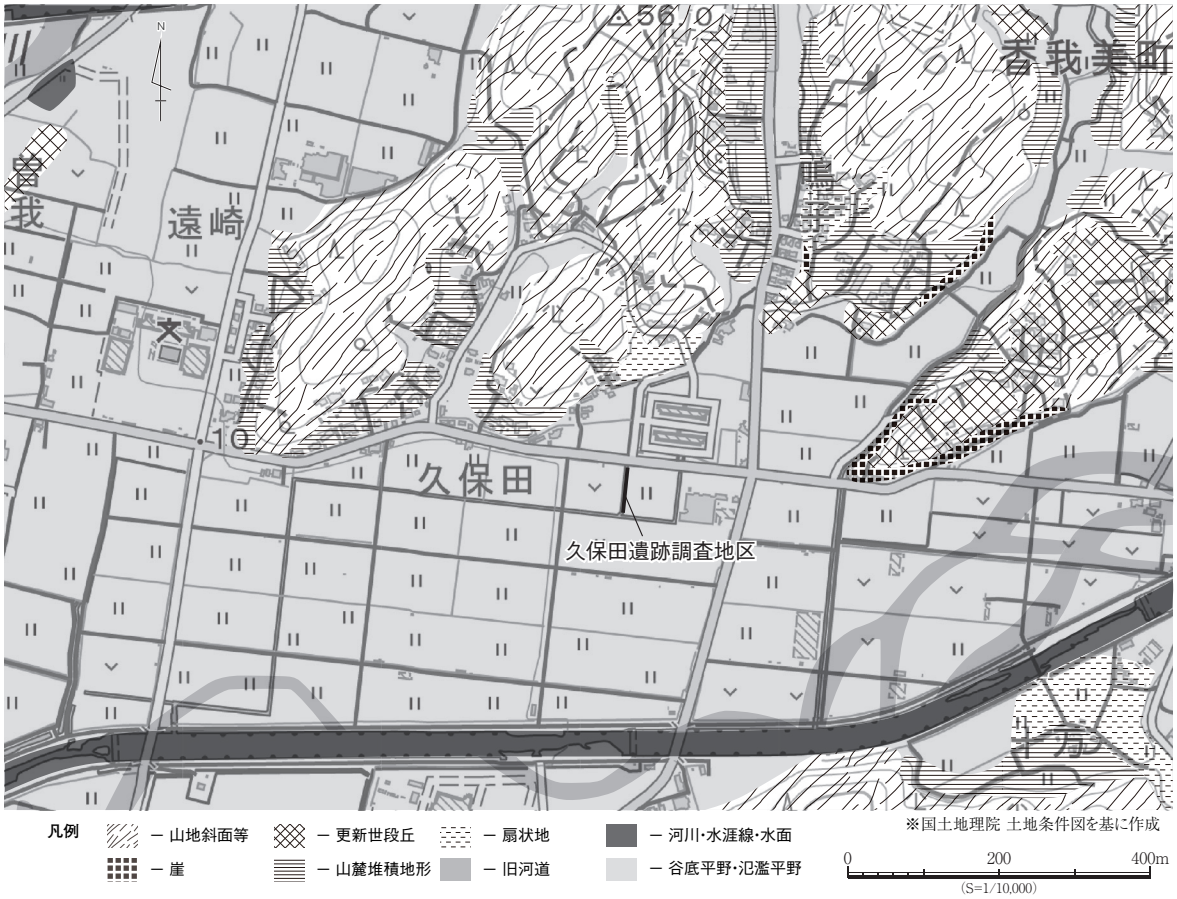


図８　久保田遺跡周辺の地形分類

2. 歴史的環境

香南市内には170を超える埋蔵文化財包蔵地が存在することが知られている。代表的な遺跡として，その規模や遺構・遺物の重要性から，物部川下流域東岸の下ノ坪遺跡（弥生時代～古代），西野遺跡（弥生時代前期末～中世），香宗川下流域西岸の東野土居遺跡（弥生時代～近世）などが挙げられる。久保田遺跡の所在する香宗川中～下流域においても，古くは縄文晩期から中世までの遺跡が多く存在しており，近年の調査成果の蓄積により，香宗川流域に展開した集落等の分布や変遷についての状況が少しずつ明らかになっている。

旧石器～縄文時代

高知県内では旧石器の出土事例はほとんどなく，現時点で香南市内において旧石器時代の遺跡は確認されていないが，物部川水系では佐野楠目山遺跡や林田遺跡（いずれも香美市土佐山田町）において旧石器時代と考えられる遺物の出土が確認されている。

香宗川の支流，山南川西岸の小段丘上から，縄文晩期～弥生前期前半にかけての集落跡である庭ヶ渕遺跡が確認され，2011年に発掘調査が行われた。その結果，縄文晩期の孔列文土器や刻目突帯文土器，弥生前期前半の遠賀川式土器などが出土した。また香南市では初めての例となる，縄文時代の住居の可能性のある遺構も検出され，当該期に山間部において営まれた小規模集落の存在を示す例として注目される。そのほか，久保田遺跡の東，香宗川のやや上流域にも縄文時代に遡る遺跡が複数存在する。十万遺跡では貯蔵穴と考えられる遺構から縄文晩期の深鉢が出土し，拝原遺跡においては，遺物包含層や，古墳時代に削平された溝から縄文晩期の土器が出土している。なお十万遺跡は，弥生，古代，中世の各時代においても重要な資料を提供してくれる貴重な遺跡である。

弥生時代

高知平野の他地域と同様，香南市域においても前期末～中期初頭および後期後半～古墳時代初頭の遺跡が多く見られ，物部川流域をはじめ香宗川流域の谷平野や沖積平野にも散在している。

香宗川中～上流域では，山南地区に所在する幅山遺跡が挙げられる。この遺跡は後期末の性格を持ち，竪穴住居や壺棺，当該期の壺や甕，高杯，敲石や石斧などが出土している。周辺には下幅遺跡，中幅遺跡などが近接し，弥生集落の広域的な分布が示唆される。拝原遺跡では，後期中葉および末葉～古墳時代初頭の竪穴住居が確認されている。また，山南川下流東岸に所在する稗地遺跡では，後期～古墳初頭の住居や土坑が検出されたほか，鉄製の穂摘具が出土した。これは，北部九州での出土例が確認されているものであるが，県内での出土は初めての例となった。

久保田遺跡から西へ約600mの位置に所在する下分遠崎遺跡は，前期末～中期中葉に集落が継続的に営まれた遺跡で，多くの弥生土器とともに木製品や獣骨・魚骨，種子などの自然遺物が粘土層から良好な状態で出土した点で大変重要な遺跡である。集落において営まれた生活を有機的に復元することができる，貴重な資料を提示する例となった。

古墳時代

高知平野での傾向と同様，香南市域でも古墳前期以降の遺跡の確認は急減する。拝原遺跡において4世紀の住居跡が2棟確認されているが，5～6世紀前半の集落は現時点で確認されていない。

香南市内で知られている古墳は，物部川を隔てた南国市や香美市域に比べて少ないが，中期（5世紀）とされる古墳が唯一，香我美町徳王子に存在するほか，大崎山古墳，大谷古墳，溝渕山古墳などの後期古墳が知られている。久保田遺跡周辺では北東へ約 200m の位置に鳴子古墳，棒ヶ谷古墳が近接して存在したとされる。いずれも小丘陵の山頂あるいは山腹に存在した径 3 ～ 5m の円墳とされるが，詳細な時期等は不明である。

古墳後期（7 世紀末～ 8 世紀初頭）に営窯したとされる須恵器窯として，徳王子に所在する徳善古窯跡群が知られている。3 基存在したとされる窯跡のうちの 1 基が当該期のもので，窯の奥壁および側壁が残存しており，灰原が現水田下に残存する可能性が指摘されている。

古代

律令期の遺跡として広く知られるものでは，8 世紀前半～ 9 世紀中葉に盛隆を見せた下ノ坪遺跡や，同じ官衙的性格を持つ深渕遺跡など，物部川下流域東岸に展開した遺跡が挙げられる。これらの遺跡からは，円面硯や風字硯，丸鞆や蛇尾などの革帯装身具，全国的にも出土が珍しい四仙騎獣八稜鏡，赤彩土師器や製塩土器，二彩陶器や緑釉陶器といった官衙関連の多様な遺物が出土している。特に下ノ坪遺跡で検出された,「コ」字状に配置された南四国最大級の規模をもつ総柱建物跡は，この地域が水運の要衝として機能していたことを示唆する重要な発見である。

香宗川流域においても，郷家のものとされる屋敷跡を検出した十万遺跡や，官衙関連の建物跡を検出した曽我遺跡が知られている。十万遺跡では，古代役人の存在を示唆する石製丸鞆の出土が注目される。曽我遺跡では，近江産や洛北産といった近畿地方由来の緑釉陶器が多く出土したほか，水辺に関する祭祀空間であったことを示す遺構が検出されている。

古代末～中世初頭には全国で荘園の成立が見られるが，香美郡域においても大忍庄が立荘され，その荘域は土佐湾に面する岸本から山間部の奥物部までの広域を包摂したことが知られる。

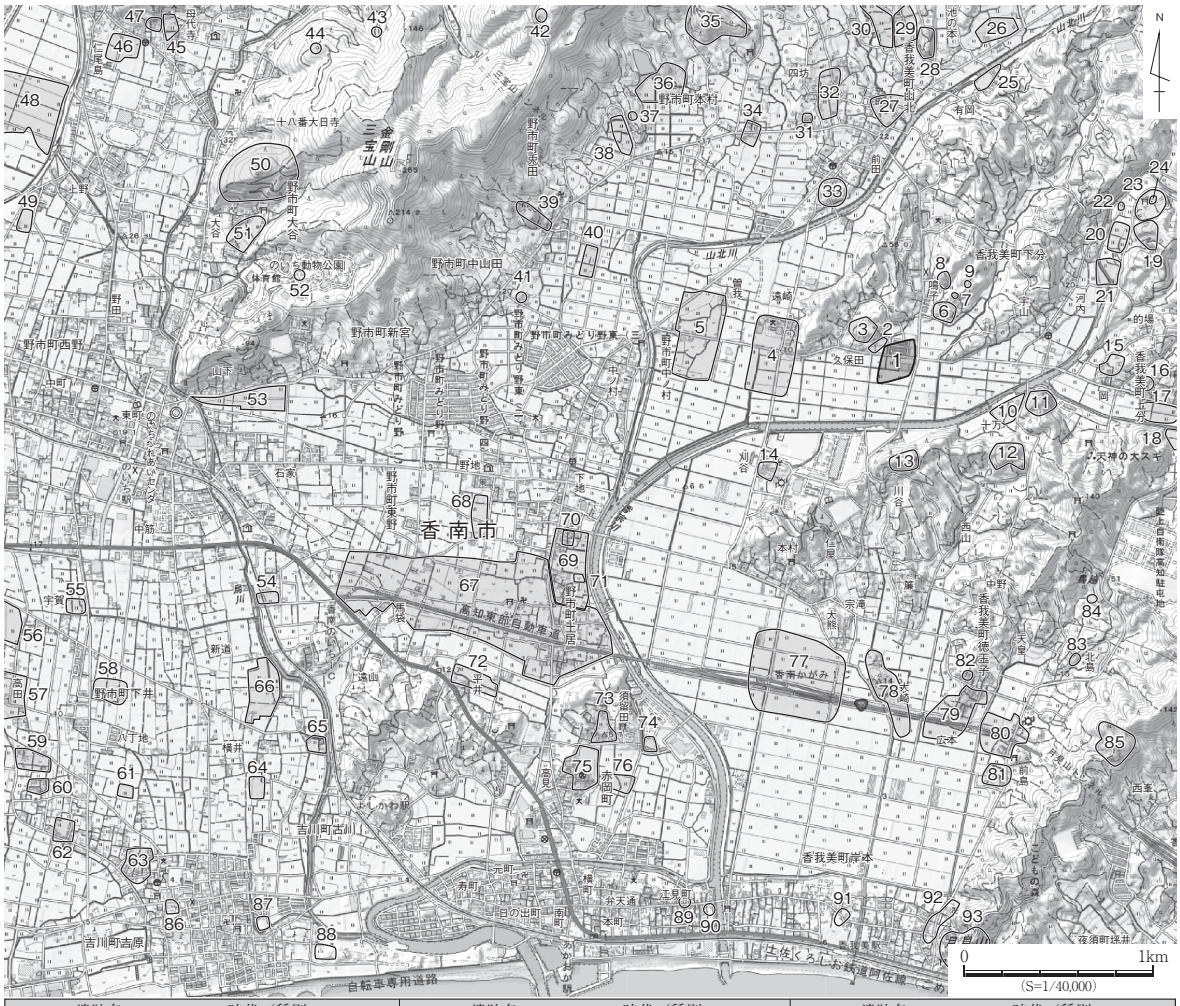
中世

久保田遺跡は中世が主体と考えられる遺跡であるが，周辺の香宗川流域には他にも中世遺跡が多く存在する。拝原遺跡では，12 ～ 13 世紀と考えられる溝から貿易陶磁器や瓦器，土師質土器が良好な状態で空間的まとまりを持って出土した。十万遺跡では，内堀と外堀を構成する溝に囲繞される大型の総柱建物群の検出が注目される。これらの成果は，大忍庄内にある当該地周辺において権力を握っていた有力者層の動向を知る上で重要な資料となった。

久保田遺跡の近隣には，北西の小丘陵にかつて中氏が築城した中城跡が存在し，その山裾には久保田庵免遺跡が所在することが知られる。この遺跡は古代～中世前期の集落跡であり，中世後期以降には水田化したと考えられている。これらの遺跡は，中氏の勢力下に展開した屋敷地とそれに付随する耕作地として，一体的に考えることができる。

中世後期に至ると，香宗川流域においても数多くの城館や山城が築城される。香宗川流域に存在したものとしては，上流から福万城，岡城，拝原城，十万城，国吉城，刈谷城，下流では香宗城などが挙げられ，詰や堀切，土塁などの遺構が現存する城跡も多い。幾人もの有力者が支配権を巡り，盛衰を繰り返した当時の緊迫した情勢を垣間見ることができる。

中世遺跡で近年調査成果が上げられたものに山下遺跡がある。野市町の秋葉山系の山麓，香宗川



遺跡名	時代／種別	遺跡名	時代／種別	遺跡名	時代／種別
1. 久保田遺跡	中世／集落跡	32. 四坊遺跡	中世／散布地	63. 八反遺跡	中世／散布地
2. 久保田庵免遺跡	古代～中世前期／集落跡	33. 前田城跡	中世／城跡	64. 小屋敷遺跡	中世／散布地
3. 中城跡	中世／城跡	34. 本村アンノヤシキ遺跡	古代・中世／散布地	65. 横井ウノ丸遺跡	古代～中世／集落跡
4. 下分遠崎遺跡	弥生／集落跡	35. 富家城跡	中世／城跡	66. 横井ナノ丸遺跡	中世～近世／集落跡
5. 曽我遺跡	弥生～中世／集落跡	36. 本村遺跡	弥生～中世／集落跡	67. 東野土居遺跡	弥生～近世／集落跡
6. 鳴子遺跡	古墳～中世／散布地	37. 大崎山古墳	古墳／古墳	68. 東野遺跡	古代・中世／散布地
7. 鳴子１号墳	古墳／古墳	38. 西ノ谷遺跡	古代・中世／散布地	69. 香宗遺跡	古代～中世／散布地
8. 榛ヶ谷遺跡	弥生／散布地	39. 兎田八幡宮遺跡	中世／散布地	70. 香宗城跡	中世／城跡
9. 榛ヶ谷古墳	古墳／古墳	40. 兎田柳ヶ本遺跡	弥生・古墳／祭祀跡	71. 宝鏡寺跡	中世／寺跡
10. 十万遺跡	縄文～中世／集落跡	41. 中山田土居城跡	中世／城跡	72. 平井遺跡	古墳・古代／散布地
11. 東十万城跡	中世／城跡	42. 笹ヶ峰遺跡	弥生／洞穴遺跡	73. ハザマ遺跡	弥生～中世／散布地
12. 十万与助城跡	中世／城跡	43. アゴデン窯跡	古代／窯跡	74. 大東遺跡	古墳～中世／散布地
13. 国吉城跡	中世／城跡	44. 竹ノ内（溝渕山）古墳	古墳／古墳	75. 須留田城跡	中世／城跡
14. 刈谷城跡	中世／城跡	45. 母代寺土居屋敷遺跡	中世／集落跡	76. 御所の前遺跡	弥生～中世／散布地
15. 岡城跡	中世／城跡	46. 母代寺遺跡	古代・中世／散布地	77. 花宴遺跡	弥生／生産遺跡
16. 拝原城跡	中世／城跡	47. 城八幡城跡	中世／城跡	78. 徳王子大崎遺跡	弥生・中世／集落跡
17. 拝原遺跡	縄文～中世／集落跡	48. 深渕北遺跡	弥生～中世／集落跡	79. 徳王子広本遺跡	弥生･古代･中世／集落跡
18. 稗地遺跡	弥生～古墳･中世／集落跡	49. 西上野遺跡	弥生／散布地	80. 徳王子前島遺跡	弥生･古代～中世／集落跡
19. 幅山遺跡	弥生／墓跡	50. 大谷城跡	中世／城跡	81. 徳善城跡	中世・近世／城跡
20. 中幅遺跡	弥生・古墳／集落跡	51. 大谷遺跡	古墳・古代／散布地	82. 徳善天皇古墳	古墳／古墳
21. 下幅遺跡	弥生・古墳／集落跡	52. 大谷古墳	古墳／古墳	83. 徳善古窯跡群	古代／窯跡
22. 野神古墳	古墳／古墳	53. 山下遺跡	古代・中世／散布地	84. 螢野古墳	古墳／古墳
23. 八王子神社遺跡	中世／祭祀遺跡	54. 東野遠山遺跡	古代～中世･近世／散布地	85. 西峰城跡	中世／城跡
24. 八王子神社古墳	古墳／古墳	55. 宇賀遺跡	弥生～中世／散布地	86. 浜口遺跡	弥生・古墳／散布地
25. 北川原遺跡	中世／散布地	56. 高田遺跡	弥生～近世／集落跡	87. 南中曽遺跡	弥生・古墳／散布地
26. 立花遺跡	古墳～古代／散布地	57. 下高田遺跡	古代～中世／集落跡	88. 住吉砂丘遺跡	弥生／散布地
27. 岡ノ芝遺跡	古墳～中世／散布地	58. 下井遺跡	古代・中世／散布地	89. 江見遺跡	古墳／散布地
28. 城山城跡	中世／城跡	59. 野口遺跡	弥生～中世／散布地	90. 岸本飛鳥神社西遺跡	近世／集落跡
29. 宮ノ前遺跡	弥生～中世／散布地	60. 射場屋敷遺跡	弥生～近世／集落跡	91. 岸本ヨノ丸遺跡	中世～近世／散布地
30. 宮の西遺跡	弥生・古墳／集落跡	61. 八丁地遺跡	古代／集落跡	92. クノ丸遺跡	弥生～近世／集落跡
31. 安岡家住宅	近世～現代／屋敷地	62. 吉原城跡	中世／城跡	93. 姫倉城跡	中世／城跡

図９　久保田遺跡周辺の遺跡

支流の烏川沿いに所在するこの遺跡では，15 ～ 16 世紀の掘立柱建物跡や，手づくね皿などが埋納された土坑墓などが検出された。長宗我部氏の影響下にあった当該地周辺における屋敷地の変遷を探る上で，新たな知見が得られた。

近世

近世における久保田遺跡周辺の香宗川流域では，中世とは一変して閑散とした農村地帯が広がっていたと考えられる。香南市域の近世遺跡としては，香宗川下流域の岸本飛鳥神社西遺跡と岸本ヨノ丸遺跡が知られる。これらの遺跡は，香我美町岸本地区を東西に伸びる旧街道沿いに形成された集落の変遷や，当時の生活や生産活動を具体的に示す例といえる。

そのほか近世の遺跡として，山北川のやや北に国指定重要文化財の安岡家住宅が所在する。復元修復工事に伴い 2013 ～ 2018 年に発掘調査が行われ，近世後期～近現代に至る時期においての民家の変遷や，当時の生活様式を示す貴重な資料が得られた。

引用・参考文献

香我美町教育委員会　1988 『十万遺跡発掘調査報告書』
香我美町教育委員会　1989 他 『下分遠崎遺跡発掘調査報告書（Ⅰ），（Ⅱ）』
香我美町教育委員会　1989 『深渕遺跡発掘調査報告書』
香我美町教育委員会　1993 『拝原遺跡発掘調査報告書』
香我美町教育委員会　1999 『幅山遺跡発掘調査報告書』
経済企画庁編　1966 『土地分類基本調査　地形・表層地質・土壌　高知』
財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター　1993 『稗地遺跡』
平朝彦・中世古幸次郎・甲藤次郎・田代正之・斎藤靖二　1979 『高知県西部の“三宝山層群”の新観察』
谷田滋・東正昭・嶋将志・磯野陽子　1999 『高知県野市町付近における仏像構造線周辺の断層と地質』
高知市・高知大学編　2009 『高知市総合調査　第 1 編「地域の自然」 高知市総合調査受託研究成果報告書』
高知県　2016 『香宗川水系河川整備計画』
日本の地質「四国地方」編集委員会編　1991 『日本の地質 8　四国地方』
日本地質学会編　2016 『日本地方地質誌 7　四国地方』
野市町教育委員会　1989 『曽我遺跡発掘調査報告書』
野市町教育委員会　1997 他 『下ノ坪遺跡Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』
藤方正治　2005 『林田遺跡Ⅲ』（財）高知県埋蔵文化財センター
松村信博・山崎真治　2000 『高知県出土の後期旧石器時代新出資料と細石刃文化期の遺跡』
松村信博・藤方正治　2013 『西野遺跡ルノ丸地区　2005 年度調査』 香南市教育委員会
松村信博・横山藍　2020 『安岡家住宅』 香南市教育委員会
宮地啓介・松村信博　2011 『曽我遺跡』 香南市教育委員会
宮地啓介　2012 『庭ヶ渕遺跡』 香南市教育委員会
山本八也・松村信博　2010 『下分遠崎遺跡Ⅳ』 香南市教育委員会
横山藍　2019 『山下遺跡』 香南市教育委員会

第Ⅲ章　調査成果

1. 調査の方法

久保田遺跡の調査対象地は図 10 に示す位置である。調査前の現況は畑地であり，水路改修工事が予定される範囲について区画に沿う形で調査区を設定した。調査区は南北に細長く，東西約 5m，南北約 55m の長方形状である。調査体制は，神明，更谷，溝渕が調査員として，7 名の発掘作業員の方々とともに調査を行った。調査対象地の北端から南へ約 4m の位置より南側を調査区として掘削した。基本的に表土から遺構検出面までの掘削は重機（バックホウ）を用いて行い，遺構検出面の精査および遺構の掘削は手作業により行った。調査にあたってグリッドの設定は行わず，調査区外に設けた基準杭を用いて平板により調査区の概略平面図を作成した。検出遺構と出土遺物の記録は写真および図面により行い，遺構個別の平面図および土層断面図は測尺や水糸を用いた遣り方測量により 1/20 の縮尺で作成，標高値は水準儀（レベル）を用いた水準測量により測定した値を記録した。掘削において生じた廃土は調査区の南側にまとめて固め置き，調査終了後の埋め戻しの際に同土を使用し現状に復した。本発掘調査についての現地説明会等の公開は行っていない。

図 10　久保田遺跡調査区位置図

2. 基本層序

調査区の西壁と北壁（図 11），および東壁（図 12）により堆積土層を観察・記録した。各壁面は角部で接してはいない。標高約 10.7m の表土下に堆積する土は，大きくⅠ層からⅨ層に分けられる。

Ⅰ層はⅠ－１からⅠ－４の４層に細分され，灰色～灰黄色シルトの耕作土の上に山土を用いた埋め立て土が堆積している状況である。Ⅱ層は黒褐色が混じる灰黄色シルトで，調査区北側での堆積は見られず，南へゆくにつれやや厚みを増す。Ⅲ層はⅢ－１とⅢ－２の２層に細分される。いずれも灰色シルトであるが，Ⅲ－１には暗褐色シルトが，Ⅲ－２には橙色シルトが混じる。Ⅲ－２は東壁のみで確認された。Ⅳ層は濃灰色を呈する粘質土～粘土の遺物包含層であり，図示し得たものを含め多くの遺物が出土している。層厚は概ね 40 ～ 50cmであり，Ⅳ－１からⅣ－３の３層に細分される。鉄分を多く含むⅣ－２は調査区南側では見られない。Ⅳ－３は粘土である。SR1 をはじめとする自然流路と考えられる遺構はⅣ層下層（標高約 10.0m）からⅦ層上面（標高約 9.6m）まで掘り込んでおり，主に灰黒色を呈する粘土と砂がやや互層をなして堆積している。Ⅴ層以下の層は，調査区北側の東壁および北壁において確認された。Ⅴ層は黄白色を呈し，粘砂土のⅤ－１と粘質土のⅤ－２に細分される。Ⅵ層は灰黄色粘質土層である。Ⅴ層とⅥ層は自然流路によって断ち切られる。Ⅶ層は自然流路より下に堆積する土で，東壁の北端部でのみ確認された。緑白色を呈し，粘質土の

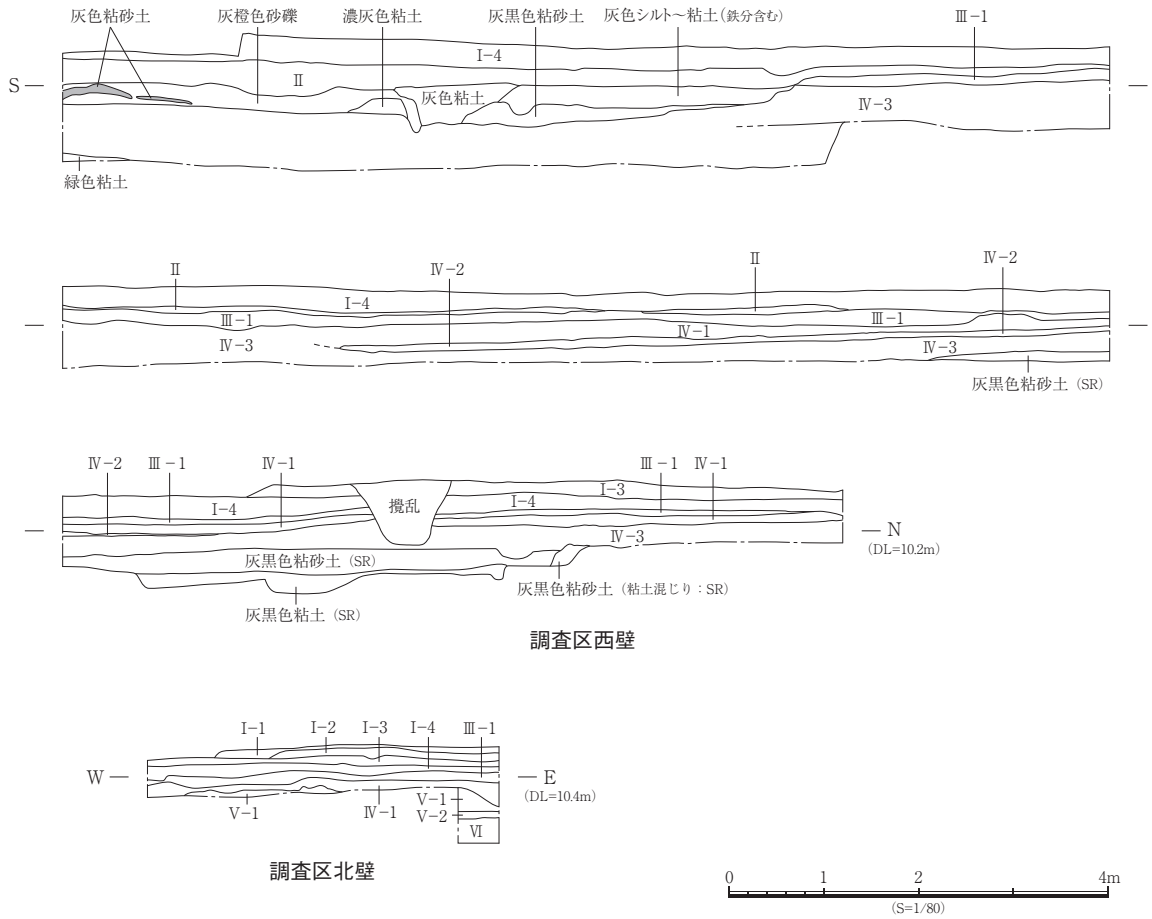
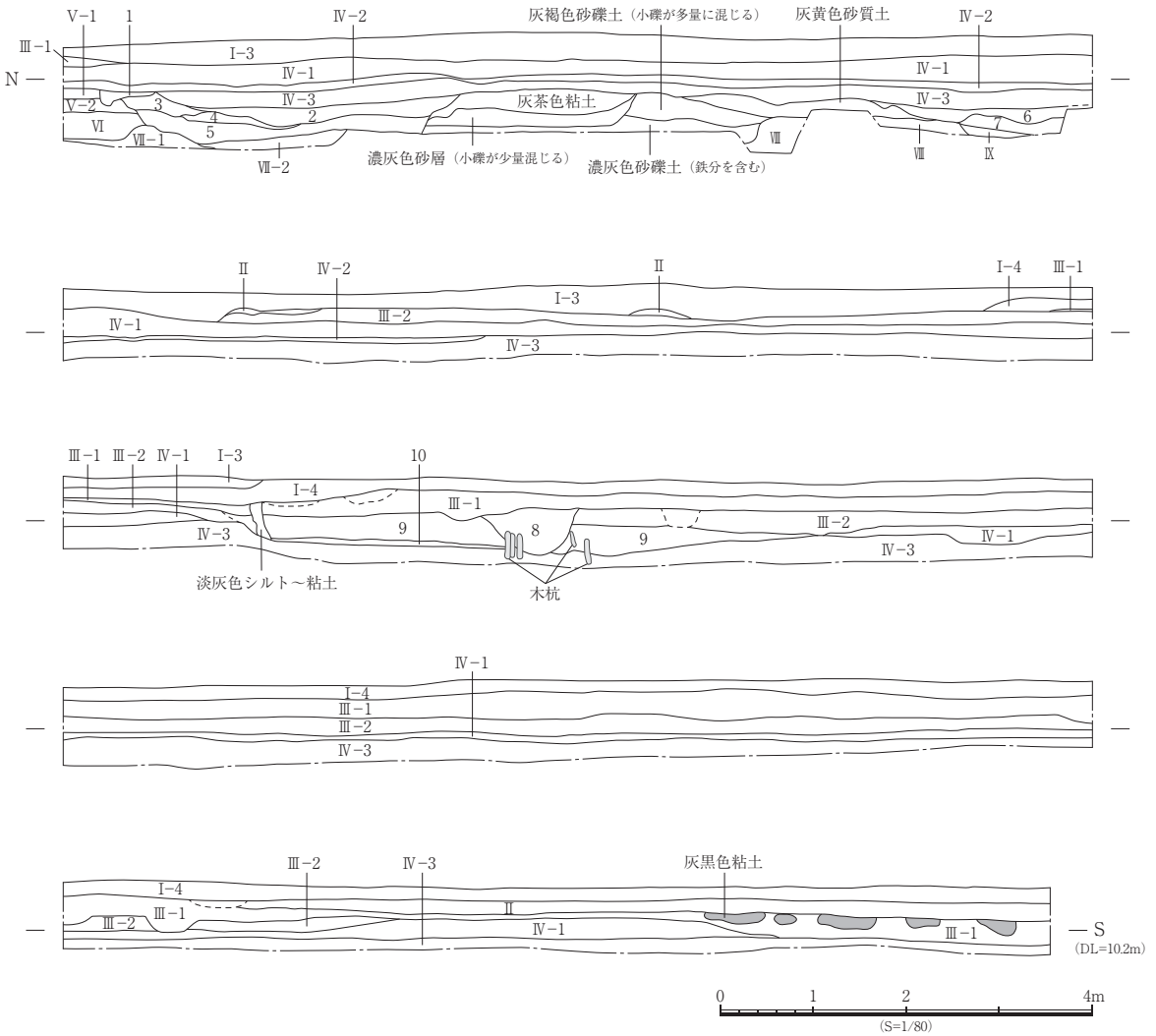


図 11　調査区西壁・北壁セクション

Ⅶ－１と粘砂土のⅦ－２に細分される。Ⅷ層およびⅨ層は自然流路の下に堆積し，いずれも東壁の一部で確認された層である。Ⅷ層は青灰色粘砂，Ⅸ層は青色砂である。表土下約 1.3m 深さまで掘削・土層観察を行った。確認最下層の標高は約 9.4m である。



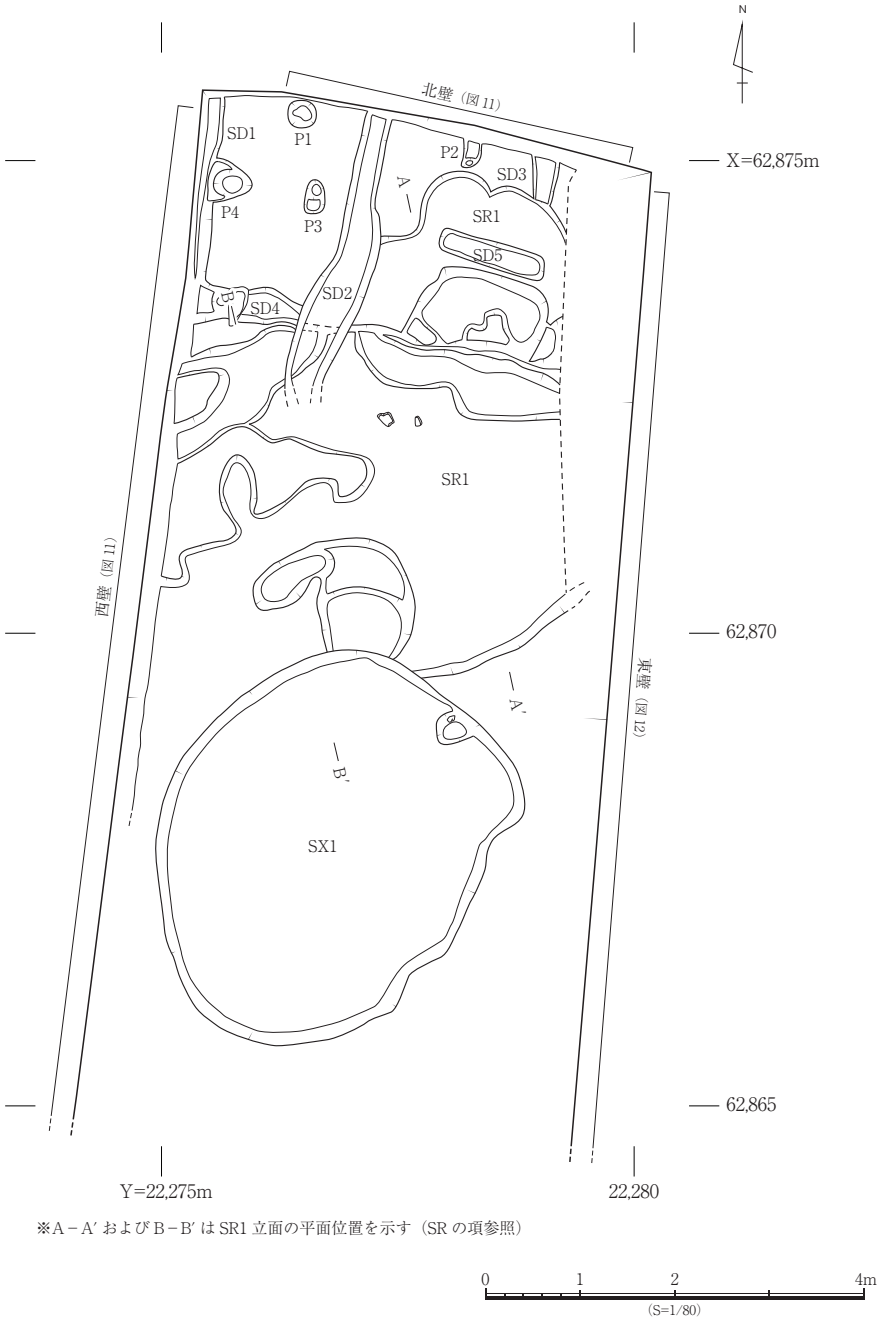
層位

第Ⅰ－１層　黒灰色シルト層（埋立土）
第Ⅰ－２層　山土層（埋立土）
第Ⅰ－３層　灰色シルト層（耕作土）
第Ⅰ－４層　灰黄色シルト層（耕作土）
第　Ⅱ　層　灰黄色シルト層（黒褐色シルト質土がブロック状に混じる）
第Ⅲ－1層　灰色シルト層（暗褐色シルト質土が混じる）
第Ⅲ－2層　灰色シルト層（橙色シルトがブロック状に混じる）
第Ⅳ－1層　濃灰色粘質土層
第Ⅳ－2層　濃灰色粘質土層（褐色鉄分を多く含む）
第Ⅳ－3層　濃灰色粘土層
第Ⅴ－1層　黄白色粘砂土層
第Ⅴ－2層　黄白色粘質土層
第　Ⅵ　層　灰黄色粘質土層
第Ⅶ－1層　緑白色粘質土層
第Ⅶ－2層　緑白色粘砂土層
第　Ⅷ　層　青灰色粘砂土層
第　Ⅸ　層　青色砂層

遺構埋土

1. 緑色砂（SR1埋土）
2. 濃黒灰色粘土（SR1埋土）
3. 橙色砂（SR1埋土）
4. 灰色砂（SR1埋土）
5. 灰黒色粘砂土（SR1埋土）
6. 濃灰色粘土（SR埋土）
7. 灰色粘土（SR埋土）
8. 橙色砂が混じる灰色シルト（近現代のSD埋土）
9. 橙色砂が混じる灰色シルト～砂（SR埋土）
10. 灰黄色粘砂土（SR埋土）

図 12　調査区東壁セクション



※A－A′ および B－B′ は SR1 立面の平面位置を示す（SR の項参照）

図 13　遺構全体図

3. 検出遺構と出土遺物

本発掘調査においては，溝５条，ピット４個，性格不明遺構１基，自然流路１条が検出された。以下，各遺構について記載する。遺構から出土した遺物は，遺構図と併せて掲載した。各遺構の規模や特徴，出土遺物については，後掲の遺構計測表にまとめて記載している。

(1) 溝

SD1（図 14）

調査区北西隅，西壁際で検出された主軸方向Ｎ－2°－Ｅの南北溝である。幅0.17m 以上，全長1.92m 以上，深さ 6.1cmを測る。溝の床面標高は 10.1m である。溝の西岸および北側は調査区外であり，北方向へ続くと見られる。溝の中央東岸で P4 と接し，南端で SD4 と切り合っているが，これらの遺構の先後関係については不明である。埋土中からは土師器の細片が 23 点出土した。これらの遺物に図示しうるものはなかった。

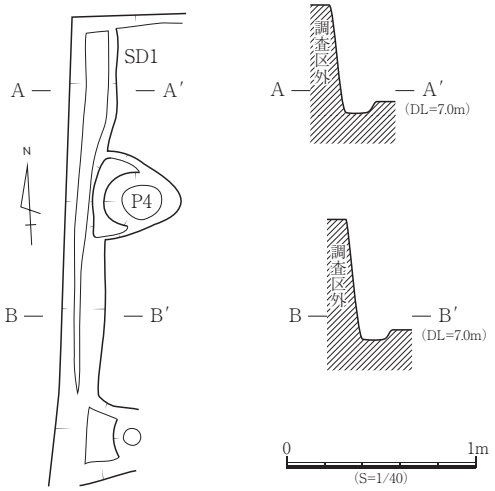


図 14　SD1 遺構図

SD2（図 15・17）

調査区北側，中央よりやや西で検出された主軸方向Ｎ－12°－Ｅの南北溝である。幅 0.27 ～ 0.55m，全長 2.98m 以上，深さ 6.3 ～ 19.9cmを測る。溝の床面標高は 10.1 ～ 10.2m で，北側が高く南に向かい約 4.5% の下り勾配である。西側の SD4 を切る。溝の南側は東西に延びる落ち込みによって切られるが，より南へ続いていたものとみられる。埋土中からは土師器 46 点，土師質土器１点，須恵器壺頸部片１点，土錘１点，瓦質土器の羽釜１点および鍋の胴部片１点が出土した。このうち土師質土器１点を図示した。2 は土師質土器杯である。底径は 7.1cmを測り，底部内面から立ち上がりにかけて凹んでいる。焼成は良好である。底部外面には回転糸切りの痕跡が認められる。

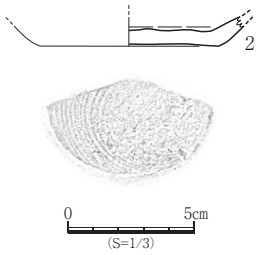


図 15　SD2 出土遺物実測図

SD3（図 17）

調査区北東部で検出された主軸方向Ｎ－4°－Ｅの南北溝である。確認できた部分は一部のみであるが，幅 0.20 ～ 0.30m，全長 0.45m 以上，深さ 3.3cmを測り，北に続くとみられる。溝の床面標高は 10.2m であり，南側を SR1 に切られる。遺物は埋土中から土師器杯または皿の破片２点，須恵器口縁部片１点が出土した。これらに図示しうるものはなかった。

SD4（図 17）

調査区北西部で検出された主軸方向Ｎ－86°－Ｗの東西溝である。幅 0.21 ～ 0.39m，全長 1.09m 以上，深さ 6.1 ～ 17.6cmを測る。西側は調査区外に続くと見られる。溝の西寄りに床面からの深さ 13.8cmのピット状の窪みがある。溝の床面標高は 10.1m で，窪みの底の標高は 10.0 mである。東側を SD2 に切られる。遺物は出土していないが，埋土上層で 40cm大の亜円礫１点を検出した。

SD5（図 16・17）

調査区北東部で検出された主軸方向Ｎ－75°－Ｗの東西溝である。幅 0.28m，全長 1.16m，深

さ 19.9cmの短い溝である。この溝は自然流路 SR1 の北側張り出し部の底面（標高 10.2m）で検出されたものであり，床面標高は 10.0m を測る。埋土中からは土師器 6 点，土師質土器 1 点，須恵器の底部 1 点および胴部 1 点が出土し，このうち土師質土器 1 点を図示した。3 は土師質土器杯である。底径は 6.5cmを測り，底部内面に工具痕が同心円状に認められる。焼成は良好で，底部外面には回転糸切りの痕跡が認められる。

図 16　SD5 出土遺物実測図

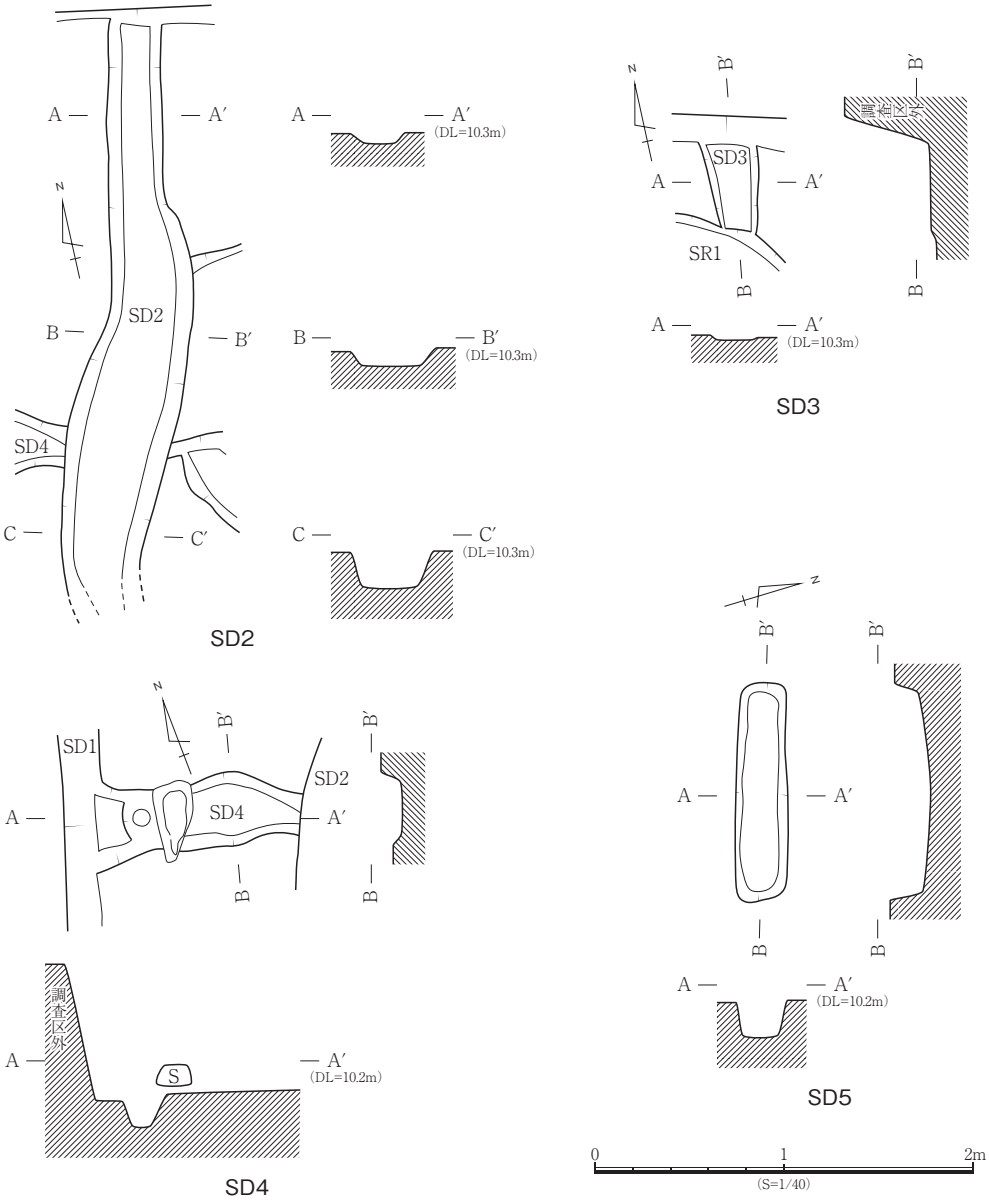


図 17　SD2・SD3・SD4・SD5 遺構図

(2) ピット

P1（図 18）

調査区北端西寄りで検出された円形のピットである。直径 0.30m，深さ 28cmを測る。ピットの床面はやや不整形を呈し，標高は 9.9m である。埋土中から土師器の細片 14 点が出土したが，図示しうるものはなかった。

P2（図 18）

調査区北壁際で検出された楕円形のピットである。ピット北側は一部調査区外におよぶ。長さ 0.28m，幅 0.19m，深さは 3.8cmで一部 8.0cmを測る。床面南側に床面からの深さ 4.2cmの落ち込みがある。最深部の標高は 10.2m である。遺物は出土していない。

P3（図 18）

調査区北西部，SD2 の西側で検出された楕円形のピットである。長さ 0.36m，幅 0.22m，深さは 14.6cmで一部 33.5cmを測る。床面北側に床面からの深さ 18.9cmの落ち込みがある。最深部の標高は 9.9m である。埋土中から土師器の細片 1 点と須恵器頸部片 1 点が出土したが，図示しうるものはなかった。

P4（図 18）

調査区北西部の西壁際で検出された楕円形のピットである。東西にやや長く，長さ 0.41m，幅 0.29m，深さ 28.8cmを測る。床面の標高は 9.9m である。SD1 の東側に接するが，切り合い関係にはないと考えられる。遺物の出土は見られなかった。したがってこのピットの時期は不明であるが，SD1 に付随する遺構である可能性は残される。

検出された 4 つのピットについてまとめると，P2 はごく浅く形状も不明瞭なピットであるが，P1，P3，P4 はいずれも深さ 30cm前後のピットである。しかしこれらに柱穴の可能性を示す柱痕や遺物等は確認されず，建物の存在を示唆するようなピットの配置も，調査した範囲においては確認されなかった。

ここまでの溝とピットは，調査区北側の上段でまとまりを持って検出された遺構であり，以下に述べる，これより南側で確認された遺構は，高さが 30 ～ 40cm下がった面において検出された。

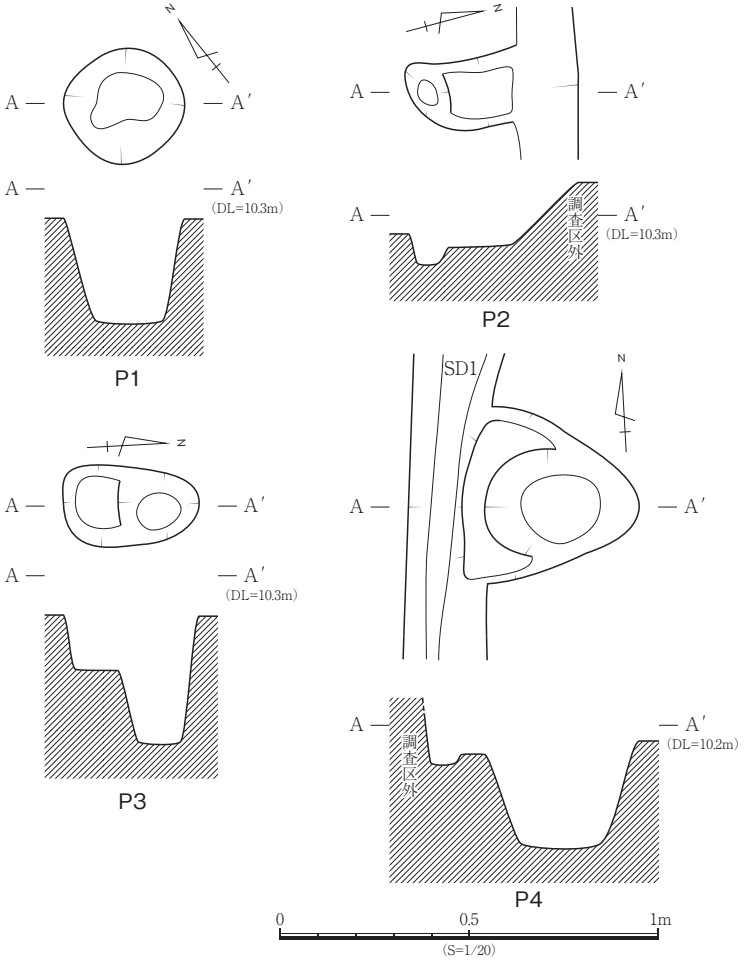


図 18　P1・P2・P3・P4 遺構図

(3) 性格不明遺構

SX1（図 19・20）

調査区南側中央部で検出された，不整楕円形状を呈する大型の遺構である。主軸方向は定量的に特定し難いが，N － 15° － E 程度で北北東方向にやや長い。平面規模は長さ 4.29m，幅 3.42m を測る。検出面からの深さは全体として浅く，床面はやや起伏を有するが概ね 4 ～ 10㎝程度である。遺構床面の南側が浅く, 北東側に向かい深さを増す傾向にある。北東隅には遺構床面からの深さ 6.4 ㎝を測るピット状の窪みがある。この窪みからは 10㎝大の砂岩の円礫 1 石と密着する形で土師器片が出土している。遺構検出面の標高は 9.9m 前後，遺構床面の標高は 9.8m 前後である。遺構埋土からは土師器，須恵器，瓦質土器のほか炭片が出土した。内訳を記すと，土師器が，煮炊具 6 点，供膳具 34 点，須恵器が，蓋 1 点，杯 2 点，瓦質土器が鍋 1 点である。このうち土師器 1 点と須恵器 1 点を図示した。4 は土師器甕の口縁部片である。口縁端部は外反し，内面に成形時のものとみられる横方向の凹状の痕跡が残る。6 世紀前半のものと考えられる。5 は須恵器蓋である。擬宝珠状の摘みを有するもので，8 世紀のものと考えられる。

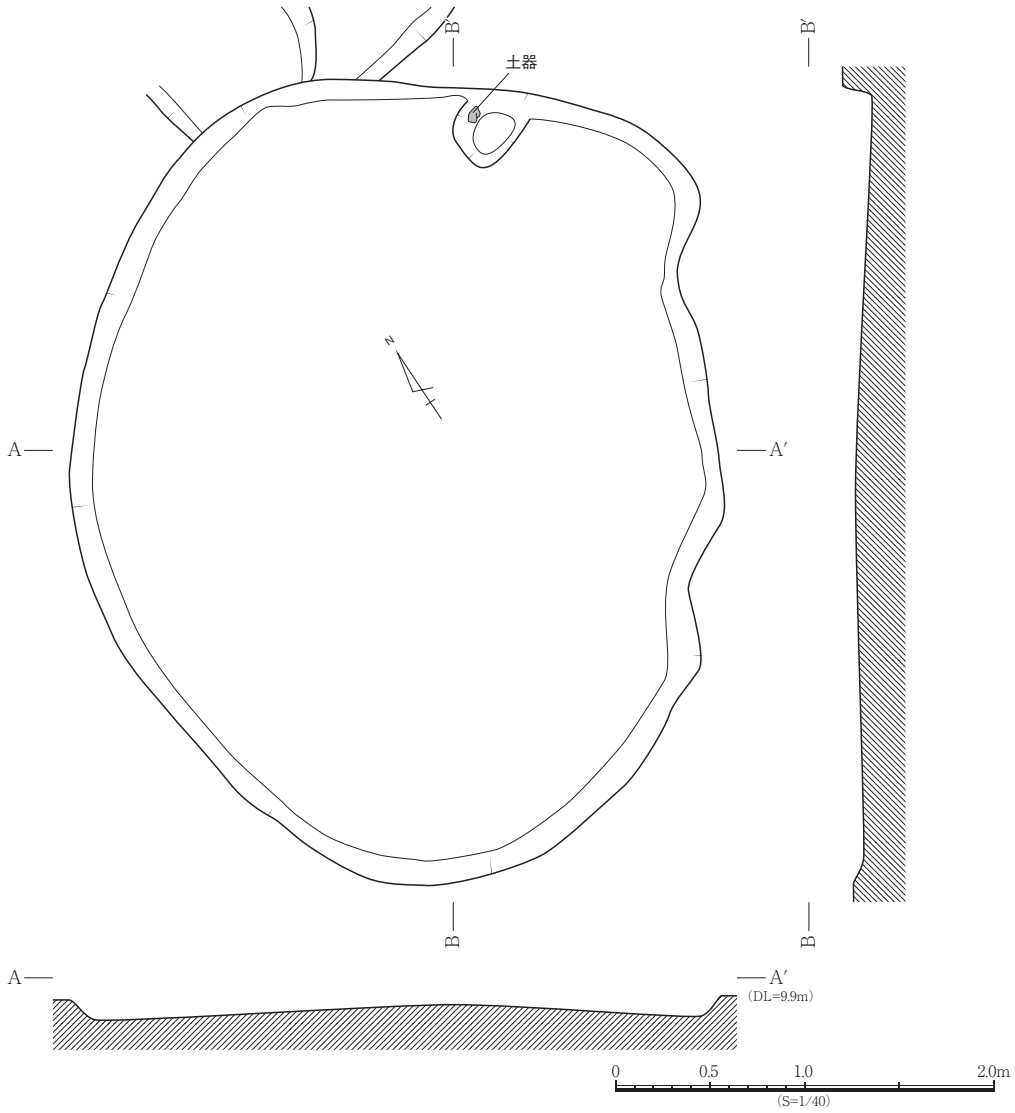


図 19　SX1 遺構図

図 20　SX1 出土遺物実測図

(4) 自然流路

SR1（図 21・22）

調査区中央から北側を東西に延びる自然流路である。北岸および南岸の平面形状は曲線的な不整形状を呈し，主軸方向はＮ－ 76°－Ｅ前後で東北東－西南西方向に流れがあったものと考えられる。平面規模は確認長さが 4.19m，幅が 2.60m から広い部分で 5.22m を測る。深さは概ね 20㎝前後であるが，流路の中央よりやや北側に長さ約 2.20m の東西溝状の窪みがあり，その部分は周囲の流路底面より 20㎝程度深い。この流路の検出面標高は 9.8m 前後であり，底面の標高は 9.7m 前後，最も深いところで 9.5m である。流路の南北方向の立面図 2 ヵ所について図 21 に示した。また流路の北東部には平面不整形状の張り出しがあり，SD3 を切っている。この張り出し部の検出面からの深さは 15.8㎝を測る。流路の埋土は調査区東壁セクションの北側において観察でき，灰黒色の粘土あるいは砂が主体である。埋土中からは弥生土器，土師器，須恵器，瓦質土器のほか土錘や砥石が出土したが，そのほとんどは摩耗が顕著であった。内訳は弥生土器の甕が 1 点，土師器は杯や煮炊具をはじめ細片を含めると 111 点，須恵器は甕や杯の破片が 5 点，瓦質土器の鍋胴部片が 2 点，土錘と砥石が各 1 点である。このうち 4 点を図示した。6 は弥生土器甕の口縁部片である。口縁部は肥厚し，口縁端部に間隔 2 ～ 4㎜の刻目を巡らせている。7 は須恵器甕の胴部片である。焼成不良により黄橙色を呈している。8 は管状土錘である。小型の円筒形で，全長 3.9㎝，全幅 1.1㎝，重量は 4.0g である。9 は細粒砂岩製の砥石である。表裏面と側面に使用痕が確認できる。

この自然流路からは弥生土器から中世の遺物まで幅広く出土しており，古い時期からの度重なる降水による氾濫等により，砂や礫が遺物とともに流れ込んで埋没・堆積したものと考えられる。流路北岸では，遺跡の北側にある小丘陵（標高 30m）から流下した山土（第Ⅴ・Ⅵ層に対応）の流れを断ち切っている状況が調査区東壁セクションから確認できる。こうした事実から，この自然流路は香宗川の旧河道あるいは流域の湿地に付随するもので，調査地を含む広範囲においてかつて東から西に向かう流れがあったと考える事が妥当である。

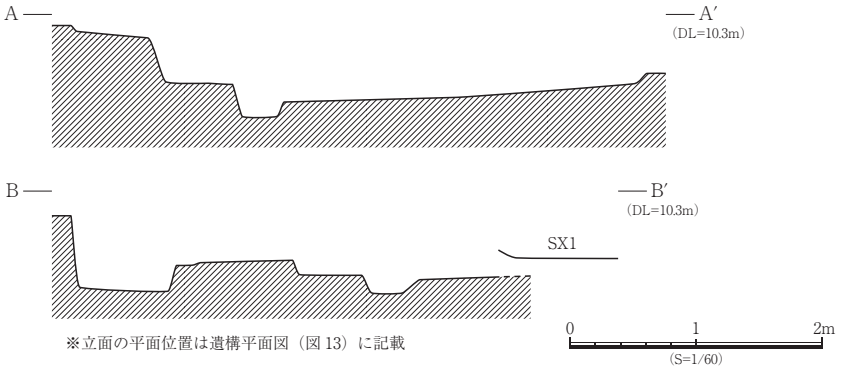


図 21　SR1 立面図

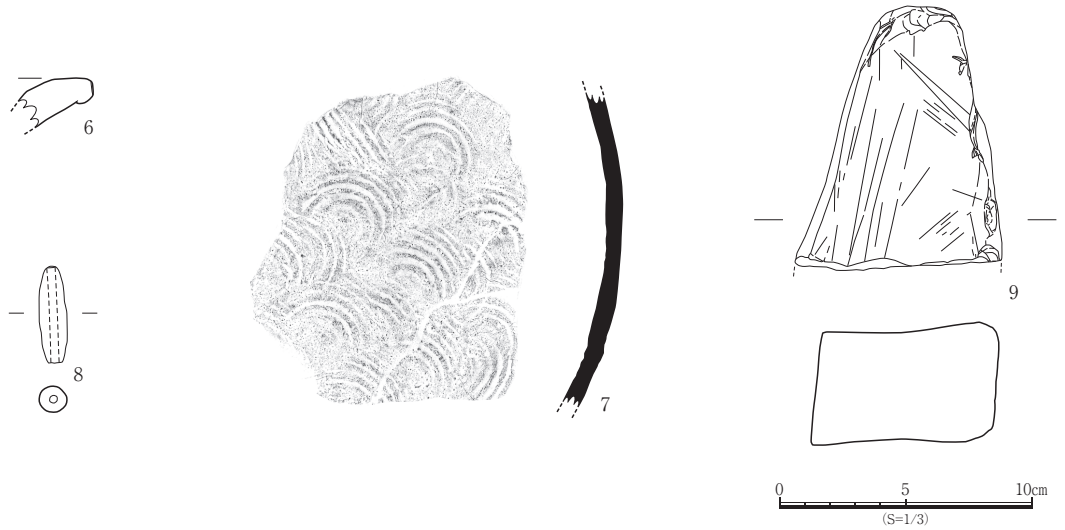


図 22　SR1 出土遺物実測図

(5) 包含層出土遺物

遺物包含層からは，土師器や須恵器，瓦質土器，貿易陶磁器，土錘などが出土した。これらの大部分は第Ⅳ層からの出土であり，第Ⅲ層以上，および調査区北部でのみ確認された第Ⅴ層以下からの出土はほとんど見られなかった。なお，後掲の遺物観察表に記載の出土層位について，調査時における遺物の取り上げ時に明確に層位を判別し得たものについてはその層位名（第Ⅳ層）を記し，そうでないものについては「包含層」とのみ記している。したがって，「包含層」からの出土は第Ⅳ層から出土した遺物を（おそらく多分に）含んでいる。

細片も含めた出土遺物の内訳は，土師器が杯，皿，煮炊具など 2,008 点，須恵器が甕や杯身，杯蓋など 102 点，瓦質土器が鍋や羽釜など 63 点，土師質土器の杯，皿が 5 点，手捏ね皿が 2 点，青磁碗が 5 点，白磁の碗と皿が各 1 点，備前焼甕が 1 点，瀬戸天目茶碗が 2 点，陶磁器が 11 点，土錘が 12 点，近世以降とみられる瓦が 6 点，他に種子が 4 点，炭化物が 2 点，木片が 3 点出土した。出土点数に基づく種類別の構成比率は，土師器が 90.8%，須恵器が 4.6%，瓦質土器が 2.8%などで，他は僅少（1%以下）である。ただし土師器の集計について，底部外面に回転糸切りの痕跡が認められる土師質土器は上記 5 点のみであるが，土師器として計上した中にも断定しえない土師質土器が一定量含まれる可能性がある。これらの遺物のうち，39 点について図示した。

10 は土師質土器杯である。底径は 7.4cmを測る。内面はナデによる調整を施し，底部は回転糸切りにより切り離している。底部内面に茶褐色の色素が線状に 2 ヵ所付着している。11 は須恵器杯の口縁部である。口縁端部は内傾して短く上がる。受け部は若干傾きをもって上方に上がる。12 は東播系須恵器捏ね鉢の口縁部である。口縁部外面は断面三角形状に肥厚する。12 世紀末～ 13 世紀初頭のものと考えられる。13・14 は土師質土器手捏ね皿である。13 は体部が丸みを帯びる。14 は口径 10.7cm，器高 2.7cmを測り，口縁端部を薄く曲線的に仕上げている。外面全体に煤が付着している。15 ～ 18 は土師質土器皿である。15・16・18 は小型の皿で法量はほぼ等しく，いずれも底部外面に回転糸切りの痕跡が認められる。17 は底径 8.4cmを測る。内外面に回転ナデによる調整を施し，底部外面に回転糸切りの痕跡が認められる。18 は口径 7.6cmを測る。磨耗しているが，内外面に回転ナデによる調整が認められる。19 ～ 24 は瓦質土器羽釜である。いずれも断面三角形の鍔

を貼り付けている。産地の分かるものは，20・24 が河内産，時期の分かるものは，21 が 13 世紀後半～ 14 世紀初頭である。25 ～ 27 は瓦質土器羽釜である。いずれも 13 世紀後半のものと考えられる。28 は瓦質土器鍋の口縁部である。口縁端部は水平な面をなし，口縁部外面にヨコナデ調整を施す。29 は瓦質土器鉢である。口径 32.4cmを測る。口縁端部を外方につまみ出す。30 ～ 33 は青磁碗である。30 は龍泉窯系のもので，内面に劃花文を施す。12 世紀末のものと考えられる。31 は龍泉窯系のもので，外面に蓮弁文を施す。蓮弁文内に成形時のものとみられる直線的な凹状の痕が認められる。32 は外面に蓮弁文が施され，蓮弁文内に横方向の櫛描き状の痕跡が認められる。33 の内面見込みには，中心に「吉」と読める文字を有する花文とみられる文様が描かれる。高台内の釉を剥ぎ取っている。34・35 は白磁である。34 は碗の口縁部である。口縁部内面の釉を剥ぎ取っている。35 は口径 12.4cmの皿である。直線状に上がる口縁部を有し，口縁部内面の釉を剥ぎ取っている。36 は備前焼の甕である。胎土には白色および黒色の砂礫を含んでいる。口縁部は玉縁状を呈し，内面にナデ調整が認められる。14 世紀～ 15 世紀のものと考えられる。37・38 は陶器碗である。瀬戸天目茶碗とみられる。37 は高台外面にヘラによるとみられる痕が認められる。褐色の釉薬を施す。38 は口径 12.0cm，器高 6.4cmを測る。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾し，口縁端部を外方につまみ出す。内外面に黒褐色の釉薬を施す。削り出し高台で，底部外面は露胎である。39 ～ 48 は全て管状土錘である。いずれも重量が 10g 以下の小型である。先端を欠くものもあるが概ね完形に近く，全長 4.0cm前後，全幅 1.0cm前後，重量は 3.0 ～ 4.0g，孔径は 0.3 ～ 0.4cmのものが主体である。39 と 47 は全幅および重量の値が他より大きく，形状がやや紡錘形を呈するものである。他は全て円筒形である。

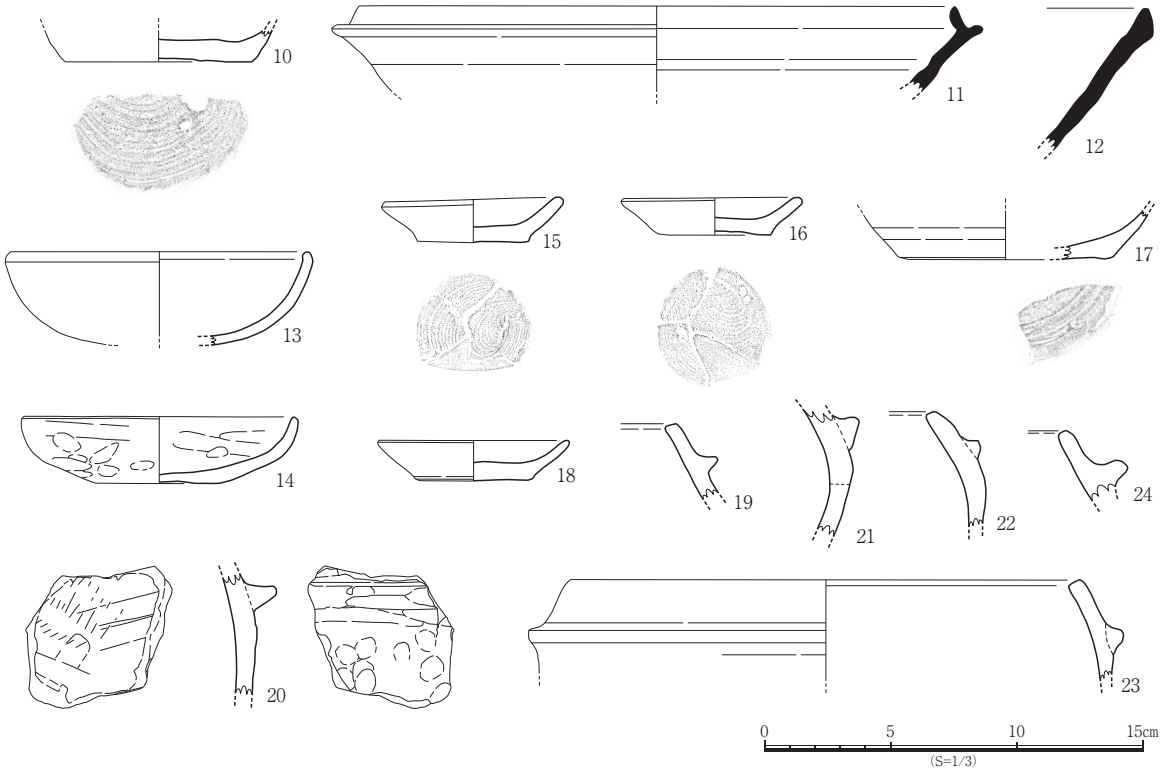


図 23　包含層出土遺物実測図 1

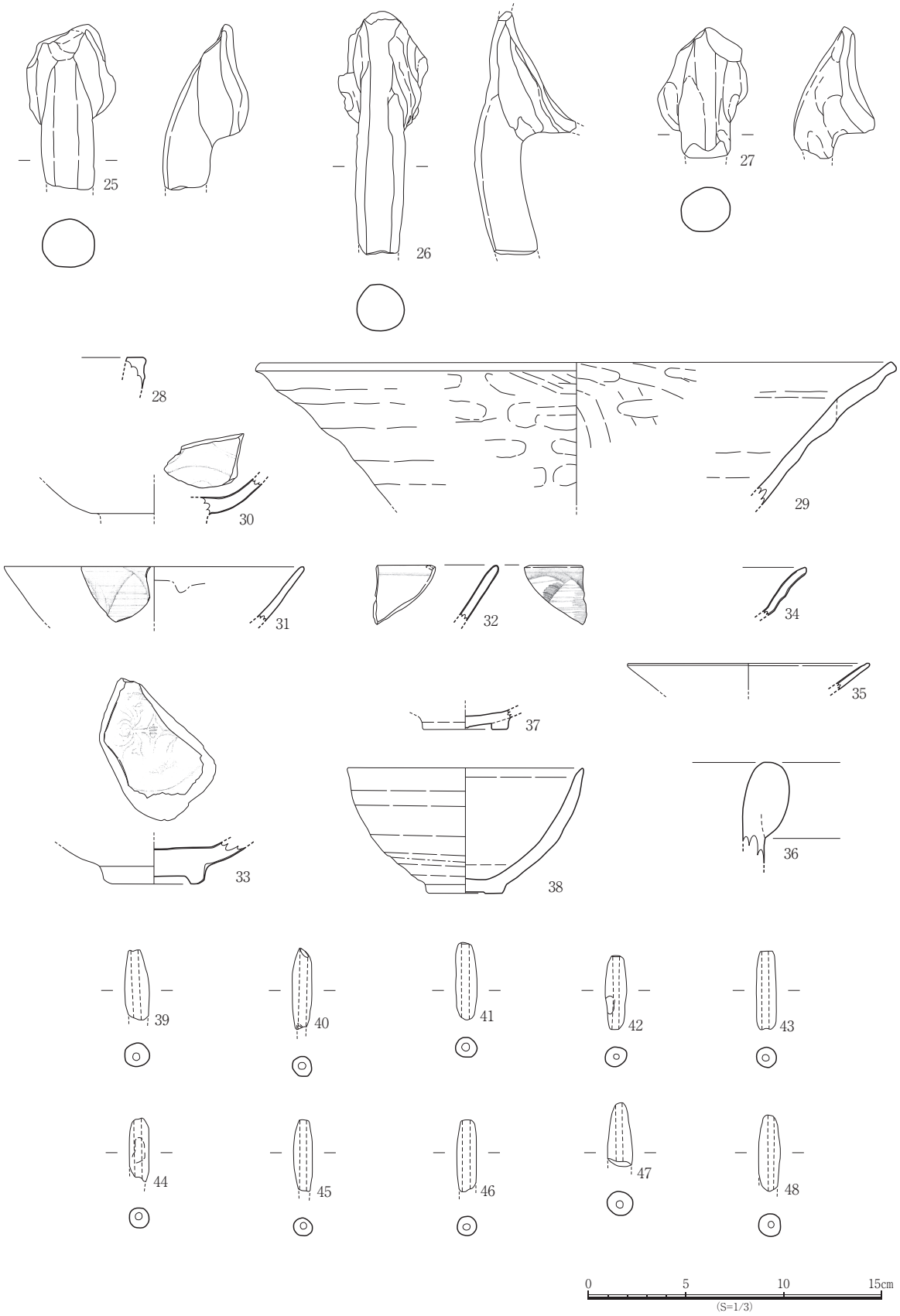


図 24　包含層出土遺物実測図 2

第Ⅳ章　総括

1. 久保田遺跡の位置付け

(1) 調査成果のまとめ

本発掘調査において検出された遺構，および遺構に伴う遺物の出土は少なく，久保田遺跡の時期や性格およびその変遷，周辺環境との関わり等について確定的なことを述べることは残念ながらできない。ここでは，調査において確認された事実をまとめることにより今後に向けての資料としたい。

確認された遺構は，調査区北側の上段（標高10.2m前後）でまとまりをもって検出された溝5条とピット4個，それより南側の下段（標高9.8m前後）で検出された性格不明遺構1基と自然流路1条のみである。SX1以南においては，精査を行ったものの遺構は検出されなかった。上段で検出された遺構については，建物の存在等を示唆するものではないが，土師質土器などの出土遺物や周辺環境を考慮すると，中世に営まれた農耕に関連する遺構の一部ではないかと思われる。自然流路については，SR1のほかに南側において調査区東壁で流路とみられる埋土の堆積が確認された。頻水地であった周辺環境を考慮すると，調査区から南側の香宗川北岸に至る範囲においては，流路遺構が複数存在するものの，居住や生産活動，農耕などに関連する遺構が存在する可能性は低いと考えられる。

出土遺物についてみると，そのほとんどが遺物包含層（Ⅳ層）からの出土で，破片・細片が多く，時期を弁別しうるものは限られている。そのなかで時期が特定できた遺物につき，参考として図25に示した。遺構名を付したもの以外はすべて包含層出土遺物である。SX1については，古墳後期から古代に比定される土器の出土が見られるが，これらには時期差があり，大型の土坑である可能性を含みつつもそれ以上の考察はできない。中世において時期のわかる遺物は，12世紀末葉～13世紀のものに一定のまとまりが見られる。これらの遺物の多くが出土したⅣ層は，自然流路が

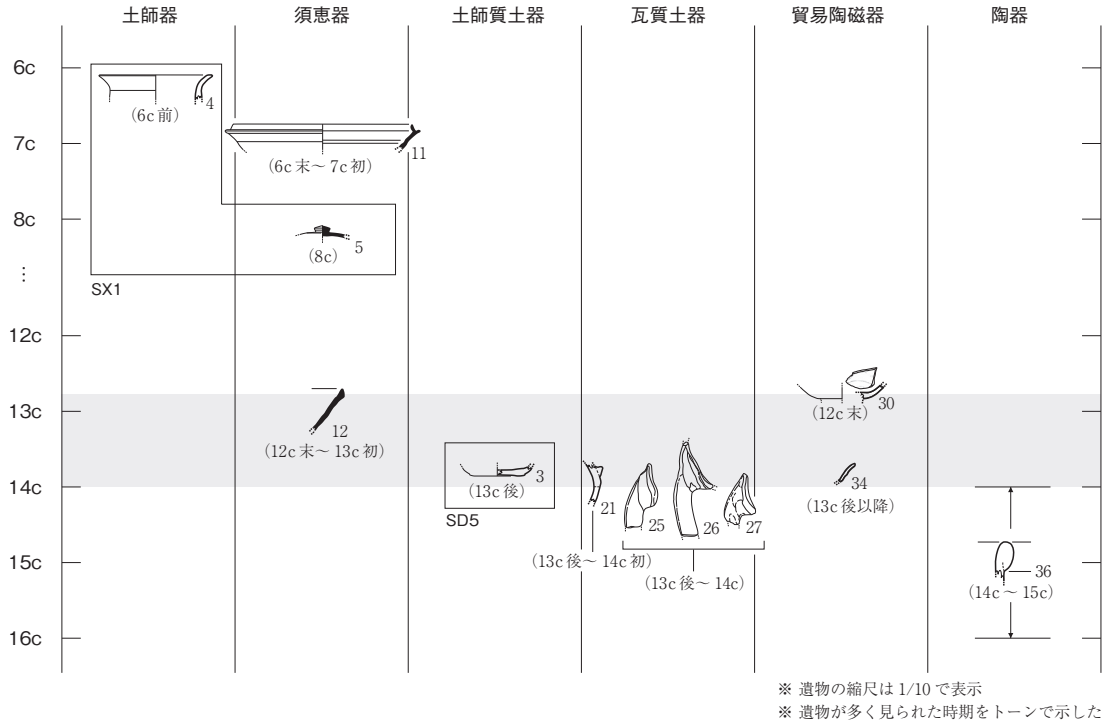


図25　久保田遺跡出土遺物の時期区分

埋没した後に堆積した土層であることが，調査区土層断面から見てとれる。したがって，これらの遺物は香宗川の氾濫等に伴い上流から運ばれたというよりは，調査区に近接する地域，特に北側の小丘陵を含む周辺に当該期に存在した集落等に伴うものであると考える方が自然である。

調査地周辺の変遷については以下の様にまとめられる。縄文～弥生時代は，調査地の東方すなわち香宗川の上流と西方の下流には集落が存在したものの，調査地周辺は氾濫の影響を受ける頻水地であり，人々の生活が定着しない場所であった。古墳時代も同様であるが，遺跡の北東側において古墳が数基認められるなど，近隣で生活の営みがあった可能性は残る。古代については，条理型地割が近隣に存在した可能性がある他は，建物等が存在した可能性を示すものは確認されていない。12 ～ 13 世紀になると，調査区周辺に集落が形成され，その後，次項で述べる中氏が台頭する 16 世紀にかけて繁栄を見せる。しかし近世に至り，周辺の城が廃絶して屋敷地が衰退すると，居住地としての密度は激減し，周辺は閑散とした農村地として利用されつつ近現代に至ることになる。

(2) 中城跡と久保田遺跡

調査地北西の小丘陵（標高約 30m）に所在する中城跡は，大忍庄最大の豪族であった中三郎左衛門秦親宣により築城され，詰や曲輪，濠の遺構が残る城跡である。長宗我部地検帳（天正）には「二ノ塀」の地名が記されている。また丘陵南麓には「お土居」と呼ばれる屋敷地があり，ここに中氏の土居屋敷が所在したとされる。中一族が有した領地は 38 町（38 万㎡）に及んだとされ，三郎左衛門は長宗我部氏と一早く手を結ぶことにより，国親から秦姓を許されたという記録が残る。

『山南村誌』および『香我美町史』の記述によると，下分八幡に久保田城（窪田古城とも）があり，城主は中新兵衛（神兵衛，甚兵衛とも）であった。本丸・二の丸・濠の遺構があり，御土居と称する所に井戸も残る。現ホノギ「庵免」,「西原」付近に「東城」という地名が残っており，中氏が所領した城地が存在した可能性があるということである。今回の調査地はホノギ図における「国吉窪」のあたりに位置すると思われるが，中氏の城が存在した「八幡」から東の「庵免」，南東の「国吉窪」およびその周辺にかけては支城をはじめ土居屋敷が広く存在し，中一族の領有地の中心であったことが推察される。なお, 地検帳に見える「八反カツホ」という地名は，条里制判断の基礎となる数詞坪名であり，物部川以東では極めて少ない。香南市内では他に東佐古の「一ノ坪」，富家本村築地神社前の「市（一）の坪」，赤岡町橋元の「一ノ坪」，大谷の現「中ノ坪」西半部の「四ノ坪」が知られるのみである[1]。「八反カツホ」は現ホノギ図には残っていないが, 推定位置は久保田の南方付近と考えられている。

今回の発掘調査においては中氏の屋敷地に関連する遺構等は確認されなかったが，調査地周辺にこうした有力者の屋敷地が広域に展開した時期があった事実は，久保田遺跡の性格を特徴づける上で重要である。

図 26　久保田遺跡周辺のホノギ図

一所五段	八反カツホノ東 出四十五代 上二反 内荒十五	遠崎村	中甚兵衛給
一所廿代	八反カツホノ西ノ南 中 内荒八代	遠崎村	中甚兵衛給
…			
一所廿代	東城 下ヤシキ	石田村	中孫五良給
…			
一所卅代	中殿ヤシキヤツメ 下ヤシキ	窪田村	中三良左衛門給
一所拾代	中殿ヤシキノ北ホリ アレ 下ヤシキ	窪田村	中三良左衛門給
一所拾五代	中殿ヤシキ二ノ塀 出廿代 中ヤシキ	窪田村	中甚兵衛給
一所廿五代	中殿ヤシキノ下 中ヤシキ	窪田村 主ゐヤシキ	中三良左衛門給
一所卅弐代	番匠ヤシキ 中ヤシキ	窪田村	中甚兵衛給

※「長宗我部地検帳 香美郡 上 大忍庄地検帳（天正十六年二月九日）」230－239 頁より抜粋

図 27　中氏所領地（城地周辺の一部）

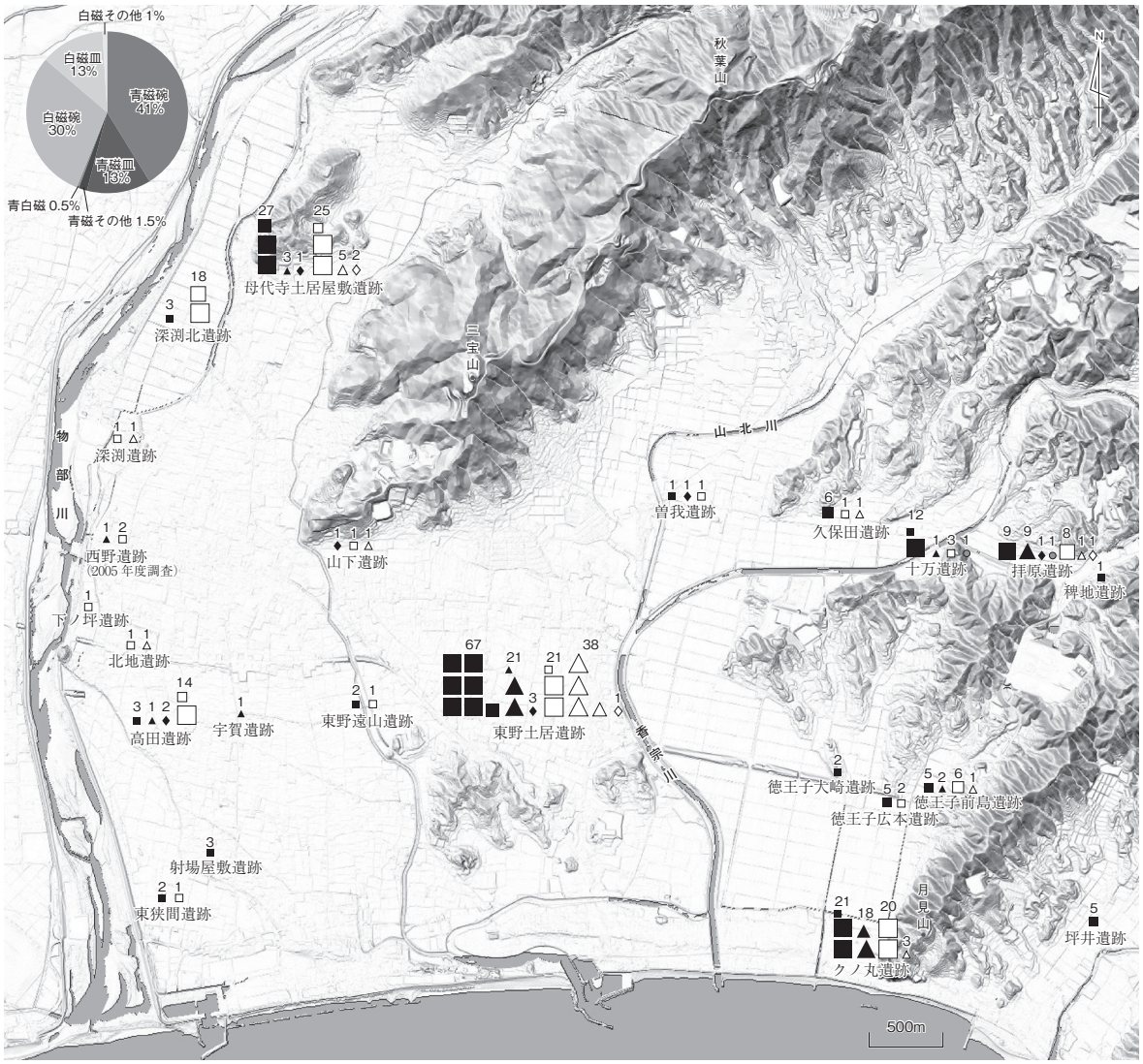
2. 香南市内遺跡出土の貿易陶磁器

久保田遺跡をはじめ，香南市域に分布する中世遺跡では，発掘調査や試掘確認調査，表面採集などにより青磁や白磁をはじめとする貿易陶磁器の出土がしばしばみられる。本節では，香南市内遺跡で出土の報告がなされた貿易陶磁器に焦点を当て，その器種や数量，分布について視覚的に示すことにより，出土傾向の概略を示すとともに今後の分析･考察に寄与する基礎的資料を提示したい。ここで扱う貿易陶磁器とは，中世（主に 12 世紀～ 16 世紀頃）と考えられる青磁，白磁，青白磁を指し，皿および碗を中心に盤，梅壺，合子，把手などがある。集計に使用した出土資料は，香南市教育委員会（旧町教育委員会を含む），および（公財）高知県埋蔵文化財センターによって実施された発掘調査を経て刊行された，発掘調査報告書に掲載のある資料に限っている。したがって報告書未掲載分や試掘調査等で出土した資料の存在を念頭に置く必要があるが，青磁や白磁などは小破片でも比較的実測・図化されやすい傾向にあることから，集計により一定の傾向は示されるものと考える。

各器種別につき，出土の報告があった貿易陶磁器の遺跡別数量分布を図 28 に示した。図を概観すると，物部川流域地区と香宗川流域地区，徳王子地区に一定の分布のまとまりが見られる。他に東野土居遺跡とクノ丸遺跡が単独の遺跡として多くの出土が見られる。東野土居遺跡はいずれの器種も多く出土しているが，青磁碗と白磁皿の比率が高い。出土地点としては，香宗川沿岸部よりやや西側の遺跡範囲中心付近において中世集落の検出に伴い多く出土している。クノ丸遺跡は姫倉城が存在した月見山の西麓にある浜堤上に形成された集落跡であるが，青磁・白磁碗を中心に単独の遺跡としては比較的多くの出土が見られる。物部川流域地区については，河口から東狭間遺跡，高田遺跡，下ノ坪遺跡などを経て海運の玄関口とされた深渕北遺跡，鎌倉時代の屋敷跡が検出された母代寺土居屋敷遺跡まで出土の分布が見られる。深渕北遺跡以南の遺跡ではいずれも少量の出土であるが，傾向として白磁碗の比率が高い点がこの地域の一つの特徴といえる。母代寺土居屋敷遺跡は，青磁・白磁とも碗の出土が際立っている。香宗川流域地区については，支流の山北川流域の曽我遺跡をはじめ，久保田遺跡より上流の遺跡である程度の出土が見られる。これらは中世の屋敷地が検出された遺跡で，周辺には山城等の城跡が多く所在する地域である。器種別では青磁碗がやや優勢を占めるが，全体として幅広い器種が出土している。青白磁の出土の報告はこの地域に限られ，十万遺跡と拝原遺跡の各 1 点のみである。徳王子地区は，出土量としては比較的少ないながらも，青磁碗を中心に各器種の出土が認められる地域である。

次に，香南市内全遺跡における各器種の法量別数量分布を図 29 に示した。ただし，全体的に破片での出土が大半を占めるため，法量が完全にわかるもの，時期が明示されているものは非常に少なかった。このため，図 29 のグラフ 1 ～ 4 は各器種の口径のみに着眼して法量分布の概観を示したものとなっている。同図のグラフ 5 は，口径と器高がわかる資料について器種別の分布を示したものであり，グラフ 6 は時期を弁別し得た資料のみについて器種別の数量分布を示したものである。グラフ 1 ～ 4 について，碗，皿の順に述べる。青磁碗は口径 15.0㎝前後の資料を中心に，13.0㎝～ 17.9㎝に分布が集中し，それよりも大きい，あるいは小さいものはほとんど見られない。一方，白磁碗は法量のバリエーションが比較的分散される傾向が見られるが，14.0 ～ 15.9㎝の資料が多くを占める。皿は碗に比して出土量が少ないのでグラフの表示精度がやや劣るが，ある程度の傾向が示されている。青磁皿は正規分布がやや崩れており，口径 10.0㎝前後の資料がやや多いものの，9.0 ～ 14.9㎝の幅を有して同程度に出土が見られるのが特徴的である。白磁皿は，口径 10.0㎝前後

の資料が最も多いが，それより大きいものが15cm台まである程度見られるのに対し，9.0cm以下の資料はほとんどない。次に，口径・器高のわかる資料を抽出したグラフ5においては，青磁・白磁の皿についてある程度の傾向が示されている。いずれの器種も概ね同程度の傾きで正の相関を示すが，青磁皿は口径がやや分散し，白磁皿は器高がやや分散するように見受けられる。白磁碗について，物部川流域では香宗川流域に比べて出土量が多く，口径が15cm前後にまとまる傾向が示された。以上の法量に関する集計が示した結果は，青磁・白磁の広く一般的な分布傾向に準ずる可能性もあるが，そのことを踏まえた上で一つの結果として示しておきたい。また，グラフ6についても数量が少ないため確かなことは述べられないが，各器種についてある程度出土が見られた時期が二つある。すなわち，12世紀代と15世紀代である。これは，時期を特定しやすい資料がこの時期のものに集中していたことを示すに過ぎない結果とも考えられるが，香南市内遺跡出土資料が示す事実の



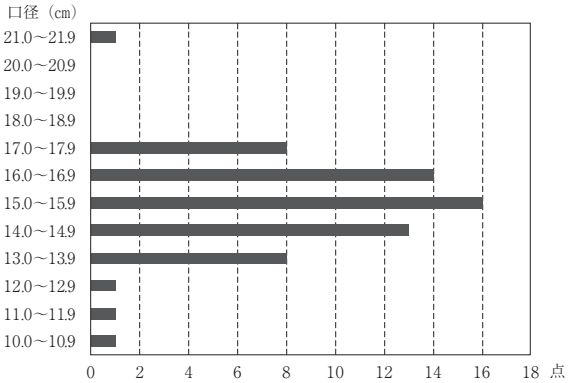
※1 背景の地形図は「カシミール3D」により作成
※2 数字は報告書掲載資料に基づく出土点数を示す
※3 左上の円グラフは全出土点数に対する器種別構成比を表す

凡例 ■ ― 青磁碗 ▲ ― 青磁皿 ◆ ― 青磁その他 ● ― 青白磁
□ ― 白磁碗 △ ― 白磁皿 ◇ ― 白磁その他

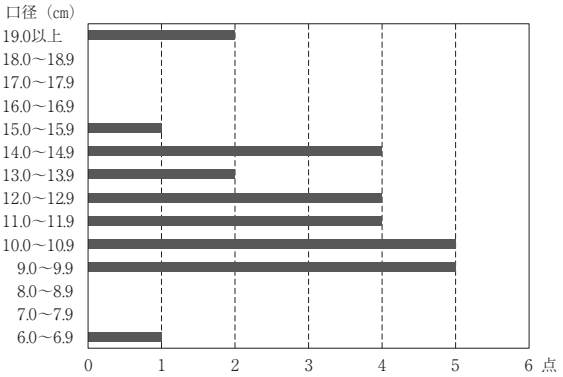
図28　香南市内遺跡出土貿易陶磁器の数量分布

一つとして留意したい。

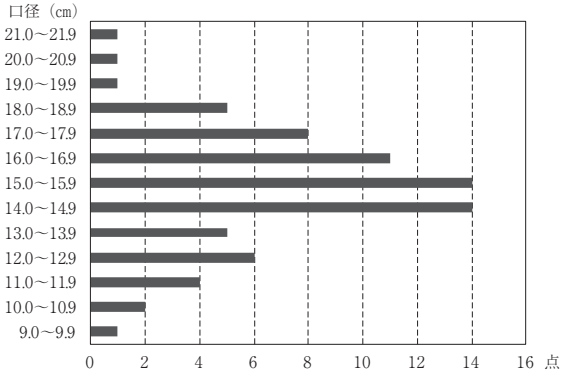
以上の集計に用いた各資料の出典を，表１～４に列記した。各発掘調査報告書別に図版番号，図版が掲載されているページ番号を併記している。各資料の特徴等の詳細を確認する際に利用していただければ幸いである。



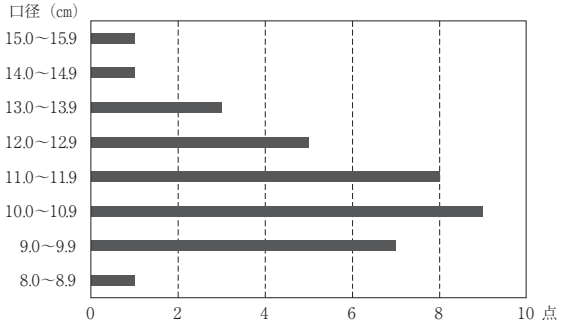
グラフ１　青磁碗 口径別出土分布



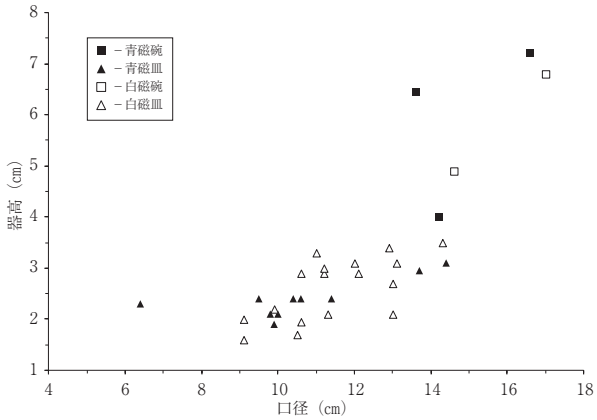
グラフ２　青磁皿 口径別出土分布



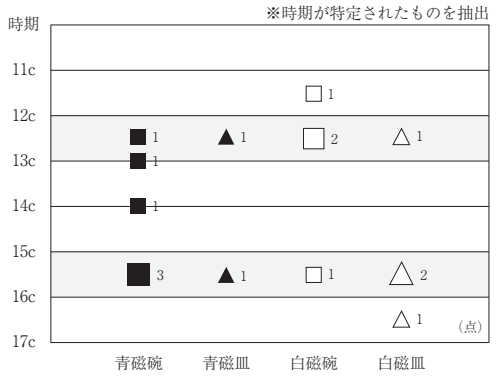
グラフ３　白磁碗 口径別出土分布



グラフ４　白磁皿 口径別出土分布



グラフ５　口径・器高別出土分布



グラフ６　時期別出土分布

図 29　香南市内遺跡出土貿易陶磁器の器種別法量構成および時期区分

器種器形	図版／掲載頁	遺構／層位	備考
射場屋敷遺跡			
青磁碗	図 169（42p）	包含層（上位）	口径 16.6, 龍泉窯系
青磁碗	図 170（42p）	包含層（D Ⅳ･V層）	口径 13.6, 龍泉窯系
青磁碗	図 171（42p）	作土層（下位）	口径 12.4, 龍泉窯系
宇賀遺跡			
青磁皿	図 3（119p）	Ⅲ区表採	
北地遺跡			
白磁碗	図 439（121p）	C 区 SK42	底径 6.3, Ⅳ類 , 12c
白磁皿	図 445（131p）	C 区 SD2	Ⅳ類 , 12c
クノ丸遺跡			
白磁碗	図 5（9p）	Ⅰ区Ⅴ層	
白磁碗	図 97（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 11.0
白磁碗	図 98（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 12.0
白磁碗	図 99（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 12.6
白磁碗	図 100（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 13.6
白磁碗	図 101（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 17.8
白磁碗	図 102（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 18.0
青磁碗	図 103（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 14.6
青磁碗	図 104（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 13.6
青磁碗	図 105（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 14.2
青磁皿	図 106（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 15.6
青磁皿	図 107（24p）	Ⅱ区Ⅳ層	口径 16.0
白磁皿	図 136（28p）	Ⅱ区東 TR	口径 10.4
白磁碗	図 139（28p）	Ⅱ区西 TR	口径 10.4
青磁碗	図 172（30p）	Ⅱ区表採・撹乱	底径 5.8
青磁皿	図 173（30p）	Ⅱ区表採・撹乱	
青磁皿	図 174（30p）	Ⅱ区表採・撹乱	口径 11.0
青磁碗	図 280（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 7.0, 外面櫛描文
青磁碗	図 281（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 15.0, 外面蓮弁文
青磁碗	図 282（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 15.0, 外面櫛描文
青磁碗	図 283（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 16.4
青磁皿	図 284（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 12.6, 内面櫛描文
青磁皿	図 285（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 13.0, 内面櫛描文
青磁皿	図 286（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 15.2, 内面櫛描文
青磁皿	図 287（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 9.0, 外面櫛描文
白磁碗	図 288（51p）	Ⅲ区Ⅱ層	口径 10.4
青磁碗	図 350（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 14.4, 外面蓮弁文
青磁碗	図 351（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 16.0
青磁碗	図 352（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 15.2
青磁碗	図 353（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	底径 5.3
青磁皿	図 354（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 13.7, 器高 2.95
青磁皿	図 355（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 12.8
青磁皿	図 356（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 14.4
白磁碗	図 357（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 9.0
白磁碗	図 358（57p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 12.0
白磁碗	図 359（58p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 14.6
白磁碗	図 360（58p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 11.4
白磁碗	図 361（58p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 18.2
白磁皿	図 362（58p）	Ⅲ区Ⅳ層	口径 13.0, 器高 2.7
白磁碗	図 379（59p）	Ⅲ区包含層	口径 17.4
青磁皿	図 387（64p）	Ⅳ区Ⅲ層	底径 3.7, 内底櫛描文
白磁碗	図 391（68p）	Ⅳ区 P12	口径 20.4
青磁碗	図 400（69p）	Ⅳ区 P25	口径 21.0
白磁碗	図 401（69p）	Ⅳ区 P36	口径 21.4
青磁碗	図 402（70p）	Ⅳ区 P38	口径 16.2
青磁碗	図 506（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 16.2, 外面蓮弁文
青磁碗	図 507（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 14.2, 内外櫛描文
青磁碗	図 508（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 16.7, 内面櫛描文
青磁碗	図 509（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 17.0, 内面櫛描文
青磁碗	図 510（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	底径 5.8, 内面劃花文
青磁皿	図 511（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 12.2, 内面櫛描文

器種器形	図版／掲載頁	遺構／層位	備考
青磁皿	図 512（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 10.0, 器高 2.1
青磁皿	図 513（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	内面櫛描文
青磁皿	図 514（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	内面櫛描文
青磁皿	図 515（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 11.2
青磁皿	図 516（77p）	Ⅳ区Ⅳ層	底径 8.5, 内面櫛描文
白磁碗	図 517（78p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 15.4
白磁碗	図 518（78p）	Ⅳ区Ⅳ層	口径 18.0
青磁碗	図 541（82p）	Ⅳ区 P70	外面蓮弁文
青磁碗	図 546（83p）	Ⅳ区包含層	内面櫛描文
白磁碗	図 563（84p）	Ⅳ区表土	口径 15.6
白磁皿	図 564（84p）	Ⅳ区表採	口径 10.6, 器高 1.95
久保田遺跡			
青磁碗	図 30（24p）	Ⅳ層	12c 末
青磁碗	図 31（24p）	Ⅳ層	口径 15.4
青磁碗	図 32（24p）	包含層	
青磁碗	図 33（24p）	包含層	
青磁碗	図版なし	試掘（TP1）	
青磁碗	図版なし	試掘（TP12）	
白磁碗	図 34（24p）	Ⅳ層	
白磁皿	図 35（24p）	Ⅳ層	口径 12.4
下ノ坪遺跡Ⅲ			
白磁碗	Fig23 図 9（65p）	L・N 区 SR3	口径 16.2, 白磁Ⅳ類
十万遺跡			
青磁碗	図 2（10p）	Ⅲ層	
青磁碗	図 3（10p）	Ⅲ層	
白磁碗	図 154（58p）	SB52-P3	口禿げ
青磁碗	図 185（60p）	SK11	外面蓮弁文
青磁碗	図 186（60p）	SK11	
白磁碗	図 187（60p）	SK11	
青磁碗	図 190（60p）	SK12	外面蓮弁文
青磁碗	図 228（64p）	SD1	外面鎬蓮弁文
青磁碗	図 229（64p）	SD1	
青磁碗	図 230（64p）	SD1	
青磁碗	図 238（64p）	SD3	
青磁碗	図 265（65p）	SD4	Ⅰ－4a 類
青磁碗	図 266（65p）	SD4	
白磁碗	図 268（65p）	SD4	
青磁皿	図 275（66p）	SD7	外面蓮弁文 , 内面魚文
青白磁碗	図 276（66p）	SD8	
青磁碗	図 289（68p）	SD12	外面細蓮弁文
曽我遺跡（昭和 63 年調査）			
青磁碗	Fig7 図 23（12p）	2 区Ⅲ層	底径 5.8, 外面蓮弁文
白磁碗か	Fig12 図 116(28p)	5 区 SK5	
曽我遺跡（平成 14 年調査）			
青磁香炉	図 42（24p）	包含層Ⅲ層	筒型の低脚香炉
高田遺跡Ⅰ（Ⅰ～Ⅳ区）			
白磁碗	図 183（45p）	Ⅱ区 SB12-P4	
白磁碗	図 288（68p）	Ⅱ区 P39	口径 14.6, 器高 4.9
白磁碗	図 374（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 14.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 375（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 13.8, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 376（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 15.6
白磁碗	図 377（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 14.0
白磁碗	図 378（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 15.4
白磁碗	図 379（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	口径 12.8
白磁碗	図 380（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	底径 6.6
白磁碗	図 381（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	底径 7.6
青磁碗	図 382（82p）	Ⅱ区Ⅱ～Ⅲ層	底径 6.4
白磁碗	図 423（86p）	Ⅰ区Ⅲ層	

表１　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器１

器種器形	図版／頁	遺構／層位	備考
白磁碗	図 424（86p）	Ⅰ区Ⅲ層	口径 12.8
白磁碗	図 425（86p）	Ⅰ区Ⅲ層	底径 6.9
青磁碗	図 426（86p）	Ⅰ区Ⅲ層	底径 5.1, 越州窯系
白磁碗	図 580（113p）	Ⅳ区Ⅳ層	Ⅳ類 , 11c 後半
高田遺跡Ⅱ（Ⅴ～ⅩⅠ区）			
青磁香炉か	図 74（27p）	Ⅴ－１区 SX17	底径 8.0, 肥前系か
青磁碗	図 161（52p）	Ⅴ－２区 SD3	底径 12.0, 碗か盤
青磁皿	図 244（73p）	Ⅴ－２区 SX15	口径 23.5, 肥前系か
青磁盤か	図 245（73p）	Ⅴ－２区 SX15	底径 13.7, 大皿か
坪井遺跡			
青磁碗	図 11（14p）	Ⅲ区 XII 層	口径 16.5, 龍泉窯系
青磁碗	図 62（18p）	Ⅲ区 XV 層	口径 15.8, 外面鎬蓮弁文
青磁碗	図 63（18p）	Ⅲ区 XV 層	内面草花文
青磁碗	図 64（18p）	Ⅲ区 XV 層	外面蓮弁文
青磁碗	図 174（29p）	Ⅳ区Ⅵ層	底径 4.8, 外面蓮弁文
徳王子大崎遺跡			
青磁碗	図 242（51p）	Ⅱ区 P10	口径 16.8
青磁碗	図 279（61p）	Ⅲ区 SK6	底径 5.2
徳王子広本遺跡			
青磁碗	図 28（15p）	Ⅰ区 XVII 層	底径 4.6, 外面鎬蓮弁文
白磁碗	図 29（15p）	Ⅰ区 XVII 層	口径 18.8
白磁碗	図 189（30p）	Ⅰ区 XIX 層	口径 17.6
青磁碗	図 214（37p）	Ⅱ区Ⅰ層	内面草花文
青磁碗	図 219（37p）	Ⅱ区Ⅴ層	口縁部内面雷文
青磁碗	図 225（38p）	Ⅱ区Ⅶ層	外面蓮弁文
青磁碗	図 376（71p）	Ⅱ区 SD34	底径 6.4, 見込劃花文
徳王子前島遺跡			
青磁皿	図 6（3p）	H17 試掘	口径 10.8
白磁碗	図 29（18p）	H19 Ⅲ層	底径 6.0
青磁小碗	図 63（20p）	H19 Ⅶ層	
青磁碗	図 64（20p）	H19 Ⅶ層	
青磁碗	図 74（23p）	SD1	口径 15.8, 龍泉窯系
白磁碗	図 218（45p）	SR4 埋土Ⅰ層	
白磁碗	図 219（45p）	SR4 埋土Ⅰ層	
白磁碗	図 220（45p）	SR4 埋土Ⅰ層	底径 8.0
白磁碗	図 306（54p）	SR4 埋土Ⅱ層	
白磁皿	図 398（70p）	H21 Ⅵ層	口径 9.1, 器高 2.0
青磁皿	図 399（70p）	H21 Ⅵ層	口径 10.0
青磁碗	図 400（70p）	H21 Ⅵ層	外面蓮弁文 , 龍泉窯系
白磁碗	図 521（79p）	SR5	
青磁碗	図 522（79p）	SR5	底径 4.7
西野遺跡ルノ丸地区（2005 年度調査）			
白磁碗	図 341（96P）	包含層	白磁碗Ⅳ類
白磁碗	図 342（96P）	包含層	
青磁皿	図 343（96P）	Ⅲ・Ⅳ層	同安窯系Ⅰ－1b 類 , 12c
拝原遺跡			
青磁小皿	図 238（42p）	SK5	口径 9.0, 同安窯系
青磁皿	図 262（44p）	SD2（床）	底径 5.0, 同安窯系
青磁皿	図 264（44p）	SD2（Ⅰ層）	高台径 4.4
青磁皿	図 265（44p）	SD2（Ⅰ層）	底径 5.0, 同安窯系
青磁碗	図 266（44p）	SD2（Ⅰ層）	口径 14.0, 外面鎬蓮弁文
白磁把手	図 267（44p）	SD2（Ⅰ層）	幅 2.4, 厚さ 0.6
青磁碗	図 268（44p）	SD2（Ⅰ層）	口径 15.0
白磁碗	図 269（44p）	SD2（Ⅰ層）	口径 14.8
白磁碗	図 270（44p）	SD2（床）	口径 13.0
白磁碗	図 271（44p）	SD2（床）	口径 14.2
白磁碗	図 288（45p）	SD5（Ⅰ層）	口径 12.0

器種器形	図版／頁	遺構／層位	備考
青磁碗	図 293（45p）	SD3	口径 16.0
青磁碗	図 308（46p）	SD7	15c 代
青白磁梅瓶	図 312（46p）	SD9	丸鑿による劃花文
青磁碗	図 323（49p）	SX2	口径 14.0, 外面鎬蓮弁文
白磁碗	図 330（49p）	SX5	口径 14.0
青磁皿	図 379（51p）	P4	口径 9.5, 器高 2.4
白磁碗	図 408（53p）	P113	高台径 6.0
青磁皿	図 427（54p）	包含層Ⅳ層	口径 8.9
青磁小皿	図 428（54p）	包含層Ⅳ層	口径 10.6, 器高 2.4
白磁碗	図 447（54p）	包含層Ⅲ層	
白磁皿	図 448（54p）	包含層Ⅳ層	底径 3.2
青磁碗	図 449（54p）	包含層Ⅲ層	高台径 3.8
青磁碗	図 450（54p）	包含層Ⅳ層	高台径 4.2
白磁碗	図 451（54p）	包含層Ⅳ層	底径 5.7
青磁皿	図 452（54p）	包含層Ⅲ層	底径 5.2, 見込櫛目文
青磁皿	図 453（54p）	包含層Ⅲ層	口径 19.4
青磁碗	図 455（54p）	包含層Ⅲ層	口径 14.0, 外面蓮弁文
青磁碗	図 456（54p）	包含層Ⅲ層	口径 12.8
青磁把手	図 457（54p）	包含層Ⅲ層	
稗地遺跡			
青磁碗	図 17－154(27p)	P7	口径 16.6, 器高 7.2
東野土居遺跡Ⅰ（Ⅰ・Ⅱ区）			
青磁碗	図 38（53p）	ⅠＢ区 SK44	外面鎬蓮弁文
白磁碗	図 232（115p）	ⅠＣ区包含層	大宰府Ⅳ期
白磁皿	図 374（171p）	ⅠＤ区 SX19	底径 3.6
東野土居遺跡Ⅱ（Ⅱ・Ⅲ区）			
白磁皿	図 4（30p）	ⅢＡ区 SB8-P8	口径 11.6
青磁碗	図 31（34p）	ⅢＡ区 SK11	口径 14.0
白磁小皿	図 83（42p）	ⅢＡ区 SK33	口径 10.6
青磁碗	図 96（42p）	ⅢＡ区 SK43	口径 14.0
白磁碗	図 174（52p）	ⅢＡ区 SK111	底径 6.8
青磁碗	図 183（54p）	ⅢＡ区 SD1(W) 中層	口径 15.1, 龍泉窯系
青磁碗	図 184（54p）	ⅢＡ区 SD1(W) 上層	龍泉窯系
青磁碗	図 185（54p）	ⅢＡ区 SD1(W) 上層	底径 5.2, 龍泉窯系
白磁碗	図 188（54p）	ⅢＡ区 SD1(W) 上層	口径 19.2, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 227（58p）	ⅢＡ区 SD10	底径 5.6
青磁皿	図 235（58p）	ⅢＡ区 SD12	口径 11.4, 器高 2.4
白磁碗	図 236（58p）	ⅢＡ区 SD12	底径 6.4, 白磁Ⅳ類
青磁碗	図 280（64p）	ⅢＡ区 SD23	口径 16.3
白磁碗	図 295（64p）	ⅢＡ区 SD25	底径 6.0, 見込印花文
青磁碗	図 344（70p）	ⅢＡ区 P22	底径 4.5
青磁碗	図 356（70p）	ⅢＡ区 P30	底径 7.3
青磁碗	図 376（71p）	ⅢＡ区 P47	鎬蓮弁文
青磁碗	図 408（74p）	ⅢＡ区 SE1 下層	底径 7.7
青磁皿	図 421（75p）	ⅢＡ区遺物包含層	口径 9.9, 器高 1.9, 同安
青磁碗	図 429（80p）	ⅢＡ区 SK128	外面細蓮弁文
青磁皿	図 435（81p）	ⅢＡ区 SD39	
青磁碗	図 451（83p）	ⅢＡ区 SD42	底径 4.7
青磁碗	図 452（83p）	ⅢＡ区 SD42	底径 5.9
青磁碗	図 453（83p）	ⅢＡ区 SD42	底径 5.7
白磁皿	図 454（83p）	ⅢＡ区 SD42	底径 4.1
白磁皿	図 455（83p）	ⅢＡ区 SD42	底径 7.5
白磁皿	図 465（85p）	ⅢＡ区 SD46	底径 3.4
青磁碗	図 488（89p）	ⅢＡ区 SD56	口径 10.2, 外面細蓮弁文
青磁碗	図 489（89p）	ⅢＡ区 SD56	底径 5.6
青磁皿	図 490（89p）	ⅢＡ区 SD56	底径 5.3
白磁皿	図 491（89p）	ⅢＡ区 SD56	口径 14.3, 器高 3.5
白磁皿	図 497（90p）	ⅢＡ区 P66	口径 12.9, 器高 3.4
白磁皿	図 506（90p）	ⅢＡ区 P69	口径 11.2, 器高 2.9
青磁碗	図 523（93p）	ⅢＡ区Ⅱ層	
青磁碗	図 524（93p）	ⅢＡ区Ⅱ層	底径 7.5

表２　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器２

器種器形	図版／掲載頁	遺構／層位	備考
白磁碗	図 525（93p）	Ⅲ A 区Ⅱ層	口径 11.4
白磁皿	図 526（93p）	Ⅲ A 区Ⅱ層	口径 9.1, 器高 1.6
白磁皿	図 527（93p）	Ⅲ A 区Ⅱ層	底径 5.2
青磁碗	図 43（117p）	Ⅲ B 区 SD5	口径 14.2, 15c 頃
白磁皿	図 44（117p）	Ⅲ B 区 SD5 中層	口径 11.3, 器高 2.1
白磁皿	図 59（117p）	Ⅲ B区SD6･10･15検面	口径 10.6, 15c 頃
白磁碗	図 63（118p）	Ⅲ B 区 SD7 中層	口径 15.2, 12c 前半頃
白磁碗	図 84（125p）	Ⅲ B 区 SD33 上層	口径 14.8, 白磁Ⅳ類
白磁皿	図 89（125p）	Ⅲ B 区 SD33	15c 後半頃
青磁碗	図 125（136p）	Ⅲ B 区 SE1	口径 13.5, 龍泉窯系
白磁皿	図 126（136p）	Ⅲ B 区 SE1	底径 4.0, 15c 頃
青磁碗	図 131（137p）	Ⅲ B 区 P2	底径 5.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 135（137p）	Ⅲ B 区 P4	口径 13.5, 龍泉窯系
青磁碗	図 137（137p）	Ⅲ B 区 P6	底径 5.2, 龍泉窯系
白磁杯	図 182（160p）	Ⅲ B 区 SK107	白磁 D 類
青磁碗	図 204（166p）	Ⅲ B 区 SD34 上層	口径 13.3, 青磁碗 C 群
青磁皿	図 206（166p）	Ⅲ B 区 SD34 上層	稜花皿 , 15c 後半
青磁碗	図 208（167p）	Ⅲ B 区 SD51	口径 15.6, 15c
白磁皿	図 209（167p）	Ⅲ B 区 SD51	口径 10.5, 白磁 D 類
白磁碗	図 211（169p）	Ⅲ B 区 SD72	白磁Ⅳ類
青磁碗	図 223（170p）	Ⅲ B 区 SD74	口径 14.7
青磁皿	図 238（175p）	Ⅲ B 区 SD91	口径 6.4, 器高 2.3
白磁皿	図 254（179p）	Ⅲ B 区 P15	口径 9.9, 器高 2.2
白磁碗	図 263（181p）	Ⅲ B 区 P21	口径 16.9, 白磁Ⅴ－４類
白磁碗	図 287（185p）	Ⅲ B 区包含層	口径 14.0, 白磁Ⅱ類
青磁碗	図 346（195p）	Ⅲ B 区 ST3 上層	
青磁碗	図 480（227p）	Ⅲ B 区 SK174	内外面雷文帯
白磁碗	図 499（232p）	Ⅲ B 区 SK203	口径 13.8
白磁皿	図 508（234p）	Ⅲ B 区 SK220	口径 12.2
青磁皿	図 509（234p）	Ⅲ B 区 SK220	底径 5.7
青磁碗	図 510（234p）	Ⅲ B 区 SK222	
青磁碗	図 547（241p）	Ⅲ B 区 SD95	口径 13.6, 器高 6.45
青磁皿	図 548（241p）	Ⅲ B 区 SD95 中層	口径 12.8, 外面蓮弁文
青磁碗	図 549（241p）	Ⅲ B 区 SD95	口径 13.8, 外面蓮弁文
青磁皿	図 555（243p）	Ⅲ B 区 SD97 下層	稜花皿
青磁皿	図 556（243p）	Ⅲ B 区 SD97	口径 12.6, 外面蓮弁文
青磁碗	図 557（243p）	Ⅲ B 区 SD97	底径 4.8, 外面蓮弁文
青磁碗	図 558（243p）	Ⅲ B 区 SD97	
青磁碗	図 559（243p）	Ⅲ B 区 SD97	
青磁碗	図 560（243p）	Ⅲ B 区 SD97 下層	底径 5.2
青磁碗	図 561（243p）	Ⅲ B 区 SD97	底径 5.8, 外面蓮弁文
青磁碗	図 562（243p）	Ⅲ B 区 SD97	底径 5.4
青磁碗	図 563（243p）	Ⅲ B 区 SD97 上層	底径 5.0
青磁盤	図 564（243p）	Ⅲ B 区 SD97 上層	外面陽刻文
青磁盤	図 565（243p）	Ⅲ B 区 SD97	口径 23.4
白磁皿	図 566（243p）	Ⅲ B 区 SD97	口径 8.2
白磁皿	図 567（243p）	Ⅲ B 区 SD97 上層	口径 9.2
白磁皿	図 568（243p）	Ⅲ B 区 SD97 底	底径 3.3
白磁皿	図 569（243p）	Ⅲ B 区 SD97	底径 3.0
白磁皿	図 570（243p）	Ⅲ B 区 SD97	底径 6.2
白磁皿	図 615（251p）	Ⅲ B 区 SD136	口径 15.4, 白磁 E 類
青磁碗	図 633（255p）	Ⅲ B 区 P41	口径 15.5, 内面陽刻文
青磁皿	図 657（259p）	Ⅲ B 区 SX23 底	口径 11.3, 稜花皿
青磁碗	図 660（260p）	Ⅲ B 区包含層	底径 5.8, 内面印刻花文
白磁皿	図 780（285p）	Ⅲ B 区 SD155	口径 13.1, 器高 3.1
東野土居遺跡Ⅲ（ⅣA・ⅣB 区）			
青磁碗	図 474（75p）	Ⅳ A 区 SK38	底径 5.2
白磁皿	図 525（90p）	Ⅳ A 区 SK97	口径 11.9
白磁皿	図 530（91p）	Ⅳ A 区 SK103	口径 12.1, 器高 2.9
白磁碗	図 547（94p）	Ⅳ A 区 SD13	口径 15.2
白磁皿	図 548（94p）	Ⅳ A 区 SD13	口径 11.8
青磁皿	図 552（96p）	Ⅳ A 区 SD18	口径 9.8, 器高 2.1
青磁皿	図 553（96p）	Ⅳ A 区 SD18	稜花皿

器種器形	図版／頁	遺構／層位	備考
青磁碗	図 570（100p）	Ⅳ A 区 SD38	外面細蓮弁文 , 見込花弁文
白磁皿	図 571（100p）	Ⅳ A 区 SD38	底径 4.4
青磁碗	図 595（104p）	Ⅳ A 区 SD45	口径 13.3
青磁碗	図 596（104p）	Ⅳ A 区 SD45	底径 5.4
白磁皿	図 597（104p）	Ⅳ A 区 SD45	口径 9.2, 菊皿
白磁皿	図 620（108p）	Ⅳ A 区 P13	底径 5.1
青磁碗	図 632（108p）	Ⅳ A 区 P20	口径 11.0
白磁碗	図 643（113p）	Ⅳ A 区 P31	口径 17.0, 器高 6.8
青磁碗	図 657（115p）	Ⅳ A 区 P44	外面蓮弁文
青磁碗	図 659（115p）	Ⅳ A 区 P46	底径 5.7
青磁碗	図 747（123p）	Ⅳ A 区Ⅳ層	外面蓮弁文
青磁碗	図 748（123p）	Ⅳ A 区Ⅳ層	口径 15.2, 外面細蓮弁文
青磁碗	図 749（123p）	Ⅳ A 区Ⅳ層	
青磁碗	図 864（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	外面蓮弁文
青磁碗	図 865（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	
青磁碗	図 866（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	口径 14.2, 外面細蓮弁文
青磁碗	図 867（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	外面細蓮弁文
青磁碗	図 868（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	底径 5.4, 細蓮弁文
青磁碗	図 869（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	底径 5.3
青磁皿	図 870（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	底径 6.7
白磁碗	図 871（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	底径 6.8
白磁皿	図 872（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	口径 11.0, 器高 3.3
白磁皿	図 873（130p）	Ⅳ A 区Ⅴ層	口径 12.0, 器高 3.1
白磁皿	図 1420（225p）	Ⅳ B － 1 区 SD8	口径 10.5, 器高 1.7
白磁皿	図 1430（227p）	Ⅳ B － 1 区 SD15	口径 9.6
白磁碗	図 1431（227p）	Ⅳ B － 1 区 SD15	底径 3.8
白磁皿	図 1441（228p）	Ⅳ B － 1 区 SD24	口径 11.2
青磁碗	図 1442（228p）	Ⅳ B － 1 区 SD24	底径 6.2
青磁皿	図 1463（231p）	Ⅳ B － 1 区 SD26	底径 4.3, 見込印刻文
青磁碗	図 1464（231p）	Ⅳ B － 1 区 SD26	底径 6.6, 外面蓮弁文
白磁皿	図 1642（256p）	Ⅳ B － 1 区Ⅲ層	口径 13.0, 器高 2.1
白磁碗	図 1643（256p）	Ⅳ B － 1 区Ⅱ層	底径 6.6
白磁碗	図 1644（256p）	Ⅳ B－1区Ⅱ～Ⅲ層	口径 16.8
白磁碗	図 1645（256p）	Ⅳ B － 1 区Ⅲ層	
青磁皿	図 1646（256p）	Ⅳ B － 1 区Ⅱ層	口径 14.6
青磁皿	図 1647（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅱ層	底径 4.8, 内面櫛描文
青磁皿	図 1648（256P）	Ⅳ B－1区Ⅱ～Ⅲ層	口径 10.4, 器高 2.4
青磁碗	図 1649（256P）	Ⅳ B－1区包含層	底径 6.2, 見込印刻文
青磁碗	図 1650（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅱ層	底径 6.4
青磁碗	図 1651（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅱ層	外面鎬蓮弁文
青磁碗	図 1652（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅲ層	外面鎬蓮弁文
青磁碗	図 1653（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅲ層	口径 17.9, 外面鎬蓮弁文
青磁碗	図 1654（256P）	Ⅳ B － 1 区Ⅲ層	口径 17.3, 外面鎬蓮弁文
東野土居遺跡Ⅳ（ⅣB・ⅣC 区）			
白磁碗	図 548（80p）	Ⅳ B － 2 区Ⅱ層	底径 6.6
青磁碗	図 1330（185p）	Ⅳ C 区 SD13	底径 5.6
青磁大皿	図 1370（192p）	Ⅳ C 区 SX3	口径 31.8, 器高 5.6
青磁皿	図 1408（196p）	Ⅳ C 区Ⅲ層	口径 14.4, 器高 3.1
青磁皿	図 1426（198p）	Ⅳ C 区包含層	口径 14.5
白磁皿	図 1429（198p）	Ⅳ C 区包含層	底径 3.4
青磁碗	図 1433（198p）	Ⅳ C 区包含層	底径 5.6, 外面鎬蓮弁文
東野遠山遺跡			
青磁碗	図 14（209p）	Ⅰ区 TR(検面か)	13c 後半～ 14c 前半
白磁碗	図 118（239p）	Ⅱ－ N － 3 区 P64	口径 16.6, 白磁Ⅳ類
青磁碗	図 143（243p）	Ⅱ － S 区包含層	
東狭間遺跡（高知県香南市発掘調査報告書 第 14 集）			
白磁碗	図 42（25p）	SX1（上位）	底径 6.0
青磁碗	図 131（45p）	SB1 － P14	12c 後～ 13c 前
青磁碗	図 132（46p）	Ⅰ区包含層	底径 6.1

表３　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器３

器種器形	図版／頁	遺構／層位	備考
深渕遺跡			
白磁碗	図 178（70p）	D 区Ⅱ層	
白磁皿	図 242（108p）	E・F 区Ⅲ層	
深渕北遺跡			
白磁碗	図 30（20p）	Ⅰ区南 SD13	口径 17.0, 白磁Ⅳ類
青磁碗	図 213（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 17.4, 同安窯系
青磁碗	図 214（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 4.9, 同安窯系
青白磁合子蓋	図 215（46p）	Ⅰ区南 SD14	口径 5.0, 器高 1.7
白磁碗	図 216（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 16.4, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 217（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 17.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 218（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 15.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 219（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 16.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 220（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 15.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 221（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 16.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 222（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 15.1, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 223（46p）	Ⅰ区南包含層	口径 14.8, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 224（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 5.4
白磁碗	図 225（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 8.1
白磁碗	図 226（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 7.2
白磁碗	図 227（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 6.0
白磁碗	図 228（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 6.4
白磁碗	図 229（46p）	Ⅰ区南包含層	底径 5.5
白磁碗	図 230（47p）	Ⅰ区南包含層	口径 14.8
白磁碗	図 231（47p）	Ⅰ区南包含層	口径 15.9
白磁碗	図 232（47p）	Ⅰ区南包含層	口径 16.6
母代寺土居屋敷遺跡			
白磁碗	図 49（21p）	集石遺構	口径 11.8
白磁碗	図 50（21p）	集石遺構	底径 6.3, 白磁Ⅳ類
青磁碗	図 51（21p）	集石遺構	同安窯系，Ⅰ－1b 類
青磁碗	図 52（21p）	集石遺構	
白磁皿	図 167（39p）	SK7	口径 11.2, 器高 3.0
白磁碗	図 168（39p）	SK7	口径 15.2, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 169（39p）	SK7	口径 16.6, Ⅴ－3 類
白磁碗	図 249（46p）	SK16	口径 15.8, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 250（46p）	SK16	
白磁壺	図 455（77p）	包含層	口径 9.8
白磁壺	図 456（77p）	包含層	
白磁皿	図 457（77p）	包含層	口径 10.2
白磁皿	図 458（77p）	包含層	口径 10.9
白磁皿	図 459（77p）	包含層	口径 9.4
白磁皿	図 460（77p）	包含層	口径 10.0
白磁碗	図 461（77p）	包含層	白磁Ⅳ類
白磁碗	図 462（77p）	包含層	口径 13.8, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 463（77p）	包含層	口径 14.6, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 464（77p）	包含層	口径 15.6, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 465（77p）	包含層	口径 14.6, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 466（77p）	包含層	口径 14.2, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 467（77p）	包含層	口径 16.4, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 468（77p）	包含層	口径 16.8, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 469（77p）	包含層	口径 15.6, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 470（77p）	包含層	口径 15.6
白磁碗	図 471（77p）	包含層	口径 17.0, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 472（77p）	包含層	口径 18.2, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 473（77p）	包含層	口径 17.9
白磁碗	図 474（77p）	包含層	底径 6.0
白磁碗	図 475（77p）	包含層	底径 7.0, 白磁Ⅷ類
白磁碗	図 476（77p）	包含層	底径 5.8, 白磁Ⅷ類
白磁碗	図 477（77p）	包含層	底径 7.2, 白磁Ⅳ類
白磁碗	図 478（77p）	包含層	底径 7.0, 白磁Ⅷ類
白磁碗	図 479（77p）	包含層	底径 7.6, 白磁Ⅳ類
青磁	図 480（78p）	包含層	皿または杯
青磁碗	図 481（78p）	包含層	龍泉窯系，Ⅰ－5b 類
青磁碗	図 482（78p）	包含層	龍泉窯系，Ⅰ－4 類
青磁碗	図 483（78p）	包含層	龍泉窯系，Ⅰ－5b 類
青磁碗	図 484（78p）	包含層	龍泉窯系，Ⅰ－4b 類
青磁碗	図 485（78p）	包含層	龍泉窯系，I－5b 類か
青磁碗	図 486（78p）	包含層	口径 13.2, 龍泉窯系
青磁碗	図 487（78p）	包含層	口径 15.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 488（78p）	包含層	口径 16.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 489（78p）	包含層	口径 14.2, 同安窯系
青磁碗	図 490（78p）	包含層	口径 16.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 491（78p）	包含層	口径 17.4, 龍泉窯系
青磁碗	図 492（78p）	包含層	口径 15.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 493（78p）	包含層	口径 17.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 494（78p）	包含層	口径 16.6, 龍泉窯系
青磁碗	図 495（78p）	包含層	口径 15.0, 龍泉窯系
青磁碗	図 496（78p）	包含層	口径 17.4, 龍泉窯系
青磁碗	図 497（78p）	包含層	口径 15.2, 龍泉窯系
青磁碗	図 498（78p）	包含層	口径 17.0
青磁碗	図 499（78p）	包含層	底径 6.4, 龍泉窯系
青磁碗	図 500（78p）	包含層	龍泉窯系，Ⅰ－5b 類
青磁碗	図 501（78p）	包含層	同安窯系，Ⅰ－1b 類
青磁碗	図 502（78p）	包含層	底径 6.4
青磁碗	図 503（78p）	包含層	底径 4.8, 同安窯系
青磁碗	図 504（78p）	包含層	底径 6.2
青磁碗	図 505（78p）	包含層	底径 4.9, 龍泉窯系
青磁皿	図 506（78p）	包含層	底径 6.2, 同安窯系
青磁皿	図 507（78p）	包含層	底径 5.0, 同安窯系
青磁皿	図 508（78p）	包含層	底径 5.6, 同安窯系
山下遺跡			
白磁皿	図 1（14p）	SB1 － P4	端反皿, 16c
白磁碗	図 27（19p）	SD3	白磁 D 類, 15c 後半
青磁	図 29（19p）	SD5	皿または碗, 内面劃花文

※ 付表に掲載した資料は，報告書執筆時点（2021 年 3 月）で既刊となっている，貿易陶磁器の出土が見られた香南市内遺跡の発掘調査報告書において図版が掲載されているものである。

※ 各形式は，青磁Ⅰが横田・森田分類（1978），青磁Ｃが上田分類（1982），白磁Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶが大宰府編年，白磁Ｄ･Ｅが森田分類（1982）に基づく。形式の詳細は各発掘調査報告書および『国立歴史民俗博物館資料調査報告書 4 日本出土の貿易陶磁』，『大宰府条坊跡 XV 陶磁器分類編』等を参照

表 4　香南市内遺跡出土の貿易陶磁器 4

補注

(1) 香我美町史編纂委員会編　1985 『香我美町史　上巻』 101 － 102 頁

坪付地名は数詞坪付（一ノ坪など）と固有名詞坪付（大坪，中坪など）の二種があるが，数詞坪付は条里制成立当初より存在する基本形である。「八反カツホ」は香我美町内で唯一，条理型地割の遺構が残る例とされる。

引用・参考文献

香我美町教育委員会　1988 『十万遺跡発掘調査報告書』
野市町教育委員会　1989 『深渕遺跡発掘調査報告書』
香我美町教育委員会　1991 『香我美町の史跡と文化財ガイド』
香我美町教育委員会　1993 『拝原遺跡発掘調査報告書』
香我美町史編纂委員会編　1985 『香我美町史　上巻』
香我美町史編纂委員会編　1993 『香我美町史　下巻』
高知県立図書館　1962 『長宗我部地検帳　香美郡　上』
高知県立図書館　1991 『土佐国史料集成　南路志　第二巻』
国立歴史民族博物館　1993 『国立歴史民俗博物館　博物館資料調査報告書 4　日本出土の貿易陶磁　西日本編 2』
財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター　1993 『稗地遺跡』
坂本裕一・筒井三菜・久家隆芳・下村裕　2016 『東野土居遺跡Ⅲ』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
坂本裕一・矢野雅子・パリノ・サーヴェイ株式会社　2018 『高田遺跡I・宇賀遺跡』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
佐竹寛・吉成承三　1996 『深渕北遺跡』 野市町教育委員会
更谷大介　2000 『下ノ坪遺跡Ⅲ』 野市町教育委員会
島内洋二・パリノ・サーヴェイ株式会社　2011 『徳王子前島遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
下村裕・井上昌紀・小川博敏・パリノ・サーヴェイ株式会社　2014 『徳王子広本遺跡』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
下村裕・島内洋二・パリノ・サーヴェイ株式会社　2013 『徳王子大崎遺跡』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
下村裕・パリノ・サーヴェイ株式会社　2012 『坪井遺跡』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
太宰府市教育委員会　2000 『太宰府市の文化財　第 49 集　大宰府条坊跡XV －陶磁器分類編－』
中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』 真陽社
出原恵三・久家隆芳・菊池直樹・山﨑孝盛・下村裕・パリノ・サーヴェイ株式会社　2014 『東野土居遺跡Ⅰ』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
出原恵三・下村裕・久家隆芳・矢野雅子・筒井三菜　2015 『東野土居遺跡Ⅱ』（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
野市町教育員会　1989 『曽我遺跡発掘調査報告書』
松村信博・藤方正治　2013 『西野遺跡ルノ丸地区　2005 年度調査』 香南市教育委員会
松村信博・宮地啓介　2010 『母代寺土居屋敷遺跡』 香南市教育委員会
松村信博・宮地啓介　2011 『北地遺跡』 香南市教育委員会
松本安紀彦・舛田龍也・辻康男・斉藤紀行　2010 『クノ丸遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター
宮地啓介　2016 『射場屋敷遺跡』 香南市教育委員会
宮地啓介　2019 『東狭間遺跡』 香南市教育委員会
宮地啓介・松村信博　2011 『曽我遺跡』 香南市教育委員会
山本大編　1982 『高知の研究　第 2 巻　古代・中世編』清文堂出版株式会社
山本幸男　1999 『香我美町の地名考　新版』香我美町教育委員会
横山藍　2019 『山下遺跡』 香南市教育委員会

遺構計測表

凡例

遺構の平面規模は，長さ（m），幅（m），深さ（cm）で示し，括弧付きの数値は残存値を示している。
出土遺物欄の括弧内数字は図版番号を示す。

遺構名	平面形状	主軸方向	規模			検出面標高(m)	出土遺物	備　考
			長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）			
SD1	－	N － 2° － E	(1.92)	(0.17)	6.1	10.2	土師器	南北溝。SD4・P4と切り合い，北へ続く。西側上端は調査区外。
SD2	－	N － 12° － E	(2.98)	0.27 ～ 0.55	6.3 ～ 19.9	10.3	土師質土器杯(2) 土師器 須恵器 瓦質土器 土錘	南北溝。SD4を切る。南側は東西に延びる落ち込みにより切られる。直線的でなく幅に変化あり。床面は南に4.5%の下り勾配。
SD3	－	N － 4° － E	(0.45)	0.20 ～ 0.30	3.3	10.3	土師器 須恵器	南北溝。SR1に切られる。北へ続く。
SD4	－	N － 86° － W	(1.09)	0.21 ～ 0.39	6.1 ～ 17.6	10.2	遺物なし	東西溝。SD2に切られる。SD1と切り合い。上層で40cm大の亜円礫1石を検出。床面西側に深さ13.8cmのピット状の窪みあり。
SD5	－	N － 75° － W	1.16	0.28	19.9	10.2	土師質土器杯(3) 土師器 須恵器	東西溝。SR1北側の底面で検出。
P1	円形	－	0.30	0.30	28.0	10.2	土師器	床面の平面形状はやや不整形。
P2	楕円形	N － 7° － E	0.28	0.19	3.8 8.0	10.2	遺物なし	上端北側は調査区外。床面南側に深さ4.2cmの落ち込みあり。
P3	楕円形	N － 0°	0.36	0.22	14.6 33.5	10.2	土師器 須恵器	床面北側に深さ18.9cmの落ち込みあり。
P4	楕円形	N － 90°	0.41	0.29	28.8	10.2	遺物なし	SD1の東側に接する。
SX1	不整楕円形	N－15°－Eか	4.29	3.42	4.1～15.9 22.3	9.9	土師器甕（4） 須恵器蓋（5） 瓦質土器 炭片	SR1を切る。南側が浅く北東に向かい深くなる。床面北東隅に深さ6.4cmのピット状の窪みあり。窪みから土器出土。
SR1	不整溝状	N－76°－Eか	(4.19)	2.60 ～ 5.22	19.0～41.2 北部15.8	9.8 北部10.2	弥生土器甕（6） 須恵器甕（7） 土製品土錘（8） 石製品砥石（9） 土師器 瓦質土器	東西に延びる自然流路。SX1に切られる。北部に張り出しがありSD3を切る。中央よりやや北側に深さ20cm程度の東西溝状の窪みあり。

遺物観察表

凡例

1. 法量は土器を基準にcmで示しているが，石製品の場合は口径が全長（cm），器高が全幅（cm），胴径が全厚（cm），土錘の場合は口径が全長（cm），器高が全幅（cm），胴径が孔径（cm），底径が重量（g）と読み替えている。括弧付きの数値は残存値を示している。

2. 中世の土器・陶磁器の分類については，『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編，および『国立歴史民俗博物館 博物館資料調査報告書 4　日本出土の貿易陶磁器　西日本編 2』国立歴史民俗博物館を参考にしている。

3. 出土層位を「包含層」と記した遺物は，第Ⅳ層を含むいずれかの層から出土したものである。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				色調 内面 / 外面	特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径			
1	試掘 TR2 包含層	炻器 甕か	–	(4.3)	–	14.4	灰白色 〃	平底。底部外面にヘラ状工具の圧痕が残る。底部内面は剥離。	
2	SD2	土師質土器 杯	–	(1.2)	–	7.1	灰黄色 浅黄橙色	底部内面～立ち上り部は凹む。内面回転ナデ。底部外面は回転糸切り。焼成良好。	
3	SD5	土師質土器 杯	–	(1.2)	–	6.5	淡黄色 〃	底部内面に工具痕が同心円状に認められる。底部外面は回転糸切り。焼成良好。	13 世紀後半か。
4	SX1	土師器 甕	14.8	(3.3)	–	–	橙色 〃	口縁端部は外反する。内面に横方向の凹状痕。火山ガラスを僅かに含む。内外面摩耗。	6 世紀前半。
5	SX1	須恵器 蓋	–	(1.7)	–	–	灰色 〃	摘み径は 2.1cm。	8 世紀。
6	SR1	弥生土器 甕	–	(1.9)	–	–	にぶい橙色 〃	口縁部は肥厚。口縁端部に刻目を巡らす。	
7	SR1	須恵器 甕	–	–	–	–	黄橙色 にぶい黄橙色	内面に同心円文。焼成不良。	
8	SR1	土製品 土錘	全長 3.9	全幅 1.1	孔径 0.3	重量 4.0g	にぶい黄橙色 〃	管状土錘。円筒形。火山ガラスを僅かに含む。	
9	SR1	石製品 砥石	全長 (10.5)	全幅 (8.2)	全厚 (4.9)	重量 (598g)	–	細粒砂岩製。表裏面と側面の 3 面に使用痕が認められる。火山ガラスを含む。	
10	Ⅳ層	土師質土器 杯	–	(1.3)	–	7.4	浅黄色 〃	内面ナデ。底部外面は回転糸切り。底部内面に茶褐色の色素付着。	
11	Ⅳ層	須恵器 杯	23.6	(3.4)	–	–	灰白色 〃	口縁端部は内傾して短く上がる。受け部はやや斜め上方に上がる。内外面回転ナデ。	6 世紀末～ 7 世紀初頭。
12	Ⅳ層	東播系須恵器 捏ね鉢	–	(5.6)	–	–	灰色 〃	口縁部外面は断面三角形状に肥厚する。外面ヨコナデ。	12 世紀末～ 13 世紀初頭。
13	包含層	土師質土器 手捏ね皿	12.0	(3.7)	–	–	浅黄橙色, にぶい橙色 〃	約 1/2 が残存。	
14	Ⅳ層	土師質土器 手捏ね皿	10.7	2.7	–	–	灰黄色 淡橙色	口縁端部を丸く仕上げる。口縁部外面ヨコナデ。内外面ナデ。内外面体部および底部ユビオサエ。外面全体に煤付着。	
15	Ⅳ層	土師質土器 皿	6.9	1.8	–	4.4	浅黄色 〃	約 2/3 が残存。体部は外上方に真直ぐ上がり口縁部に至る。口縁端部を丸く仕上げる。底部外面は回転糸切り。	
16	Ⅳ層	土師質土器 皿	6.8	1.5	–	4.4	にぶい黄橙色 〃	約 2/3 が残存。体部は外上方に真直ぐ上がる。内外面ナデ。底部外面は回転糸切り。	
17	Ⅳ層	土師質土器 皿	–	(2.0)	–	8.4	にぶい橙色 灰白色	内外面回転ナデ。底部外面は回転糸切り。	
18	Ⅳ層	土師質土器 皿	7.6	(1.6)	–	4.7	浅黄橙色 〃	内外面回転ナデ。底部外面は回転糸切り。摩耗著しい。	
19	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	–	(3.0)	–	–	灰色 〃	口縁端部は面をなす。断面三角形の鍔を貼り付ける。内面ヨコナデ。外面は口縁部から鍔までヨコナデ。	
20	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	–	–	–	–	灰色 オリーブ黒色	断面三角形の鍔を貼り付ける。鍔の下はヘラケズリ。体部外面に煤付着。	河内産。
21	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	–	–	–	–	黄灰色 灰色	断面三角形の鍔を貼り付ける。内面ナデ。内面および鍔の下に接合痕が残る。外面に煤付着。	13 世紀後半～ 14 世紀初頭。
22	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	–	(4.5)	–	–	オリーブ黒色 灰色	口縁端部は面をなす。断面三角形の鍔を貼り付ける。鍔の下に接合痕が残る。鍔の下から胴部にかけて煤付着。	
23	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	20.2	(4.0)	–	–	にぶい黄橙色 にぶい橙色	口縁端部は面をなす。断面三角形の鍔を貼り付ける。内面ヨコナデ。外面は摩耗により調整不明。鍔の下に接合痕が残る。	
24	包含層	瓦質土器 羽釜	–	(2.8)	–	–	灰色 〃	口縁端部を丸く仕上げる。断面三角形の鍔を貼り付ける。内面ナデ。口縁部外面および鍔部はヨコナデ。	河内産。

遺物観察表 2

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 口径	器高	胴径	底径	色調 内面 / 外面	特徴	備考
25	Ⅳ層	瓦質土器 羽釜	–	(8.5)	–	–	灰色 〃	脚部の全厚は 2.4cm。	13 世紀後半 ～ 14 世紀。
26	包含層	瓦質土器 羽釜	–	(12.5)	–	–	灰色 〃	脚部の全厚は 2.4cm。	13 世紀後半 ～ 14 世紀。
27	包含層	瓦質土器 羽釜	–	(6.7)	–	–	灰色 オリーブ黒色	脚部の全厚は 2.2cm。	13 世紀後半 ～ 14 世紀。
28	Ⅳ層	瓦質土器 鍋	–	–	–	–	黒色 〃	口縁端部は面をなす。口縁部外面ヨコナデ。口縁部内面剥離。	
29	包含層	瓦質土器 鉢	32.4	(7.3)	–	–	オリーブ黒色 〃	口縁端部を外方につまみ出す。外面に接合痕が残る。	
30	Ⅳ層	青磁 碗	–	–	–	–	オリーブ灰色 〃	内外面施釉。内面劃花文。	龍泉窯系。 12 世紀末。
31	Ⅳ層	青磁 碗	15.4	(2.8)	–	–	オリーブ黄色 〃	口縁端部は薄く仕上げる。外面蓮弁文。蓮弁文内に直線的な凹状の痕跡が認められる。貫入あり。口縁部内面に釉垂れ痕あり。	龍泉窯系。
32	包含層	青磁 碗	–	(2.9)	–	–	灰色 〃	外面蓮弁文。蓮弁文内に横方向櫛描き状の痕跡が認められる。内外面施釉。精緻な胎土。	
33	包含層	青磁 碗	–	(2.2)	–	5.2	黄褐色 灰白色	外面蓮弁文。内面見込みに中心に「吉」と読める文字を有する花文とみられる文様あり。高台内釉剥ぎ。	
34	Ⅳ層	白磁 碗	–	(2.5)	–	–	灰白色 〃	口縁端部内面の釉を削り取る。平底。	13 世紀後半 以降。
35	Ⅳ層	白磁 皿	12.4	(1.4)	–	–	灰白色 〃	口縁部は直線をなす。口縁端部内面の釉を削り取る。焼成良好。	
36	Ⅳ層	備前 甕	–	(5.1)	–	–	にぶい赤褐色 灰褐色	口縁部は玉縁状を呈する。内外面ナデ。	14 世紀～ 15 世紀。
37	包含層	陶器 碗	–	(1.0)	–	4.4	褐色 にぶい橙色	高台外面にヘラによるとみられる痕。褐色の釉薬。	瀬戸天目茶碗。
38	包含層	陶器 碗	12.0	6.4	–	3.8	黒色 黒色, 灰白色	口縁端部をつまみ出す。体部～口縁部にかけ緩やかに内湾。内外面黒褐色釉。底部露胎。削り出し高台。	瀬戸天目茶碗。
39	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 (3.6)	全幅 1.3	孔径 0.35	重量 (5.0g)	にぶい黄橙色 にぶい橙色	管状土錘。やや紡錘形を呈する。	
40	包含層	土製品 土錘	全長 (4.2)	全幅 1.0	孔径 0.4	重量 (3.0g)	橙色 〃	管状土錘。円筒形。	
41	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 4.0	全幅 1.1	孔径 0.4	重量 4.0g	にぶい橙色 〃	管状土錘。円筒形。	
42	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 3.8	全幅 1.1	孔径 0.3	重量 3.0g	橙色 〃	管状土錘。円筒形。	
43	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 4.0	全幅 1.1	孔径 0.35	重量 4.0g	橙色 〃	管状土錘。円筒形。	
44	包含層	土製品 土錘	全長 (3.3)	全幅 1.0	孔径 0.35	重量 (2.0g)	淡赤橙色 橙色	管状土錘。円筒形。表面剥離による凹凸あり。	
45	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 (3.7)	全幅 0.95	孔径 0.3	重量 (3.0g)	にぶい橙色 橙色	管状土錘。円筒形。	
46	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 (3.7)	全幅 1.0	孔径 0.35	重量 (3.0g)	赤橙色 赤橙色, 赤色	管状土錘。円筒形。	
47	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 (3.3)	全幅 1.3	孔径 0.4	重量 (4.0g)	にぶい橙色 〃	管状土錘。やや紡錘形を呈する。	
48	Ⅳ層	土製品 土錘	全長 (3.9)	全幅 1.1	孔径 0.3	重量 (4.0g)	黄橙色 橙色	管状土錘。円筒形。	

写真図版

久保田遺跡周辺風景（南より）

調査区北部遺構完掘状態（南西より）

調査区南部遺構完掘状態（北より）

図版２

調査区北部東壁（西より）

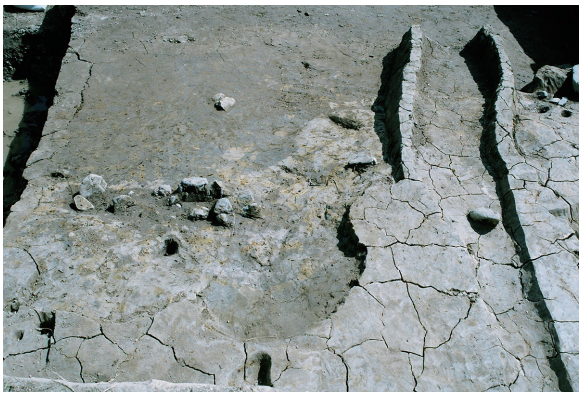
調査区全景および作業風景（北より）

瓦質土器三足脚付き羽釜（26）出土状態

SR1 石製品砥石（9）および須恵器甕（7）出土状態

図版４

調査区北部遺構検出状態（東より）



SD2周辺遺構完掘状態（北より）

調査区北部遺構完掘状態（南西より）

調査区北部遺構完掘状態（南より）

SR1完掘状態（南より）

SR1周辺遺構完掘状態（南東より）

SX1完掘状態（南より）

SX1周辺遺構完掘状態（北より）

遺構完掘状態（南より）

調査区東壁（北西より）

調査区西壁（北東より）

調査区南西部サブトレンチおよび西壁（南東より）

SX1 土器出土状態

Ⅳ層 土器出土状態

調査風景（北より）

調査後風景（北東より）

図版6

1（内面）

1（外面）

2（内面）

2（外面）

3（内面）

3（外面）

4（内面）

4（外面）

土師器（甕），土師質土器（杯），炻器

5

6

7（内面）

7（外面）

9（表面）

9（裏面）

10（内面）

10（外面）

弥生土器（甕），須恵器（蓋・甕），土師質土器（杯），石製品（砥石）

図版８

11

12

13（内面）

13（外面）

14

14（外面）

15（内面）

15（外面）

須恵器（杯），東播系須恵器（捏ね鉢），土師質土器（手捏ね皿・皿）

16（内面）

16（外面）

17

18

19

20

21

22

土師質土器（皿），瓦質土器（羽釜）

図版10

瓦質土器（羽釜・三足脚付き羽釜・鍋・鉢）

30

31

32

34

33（内面）

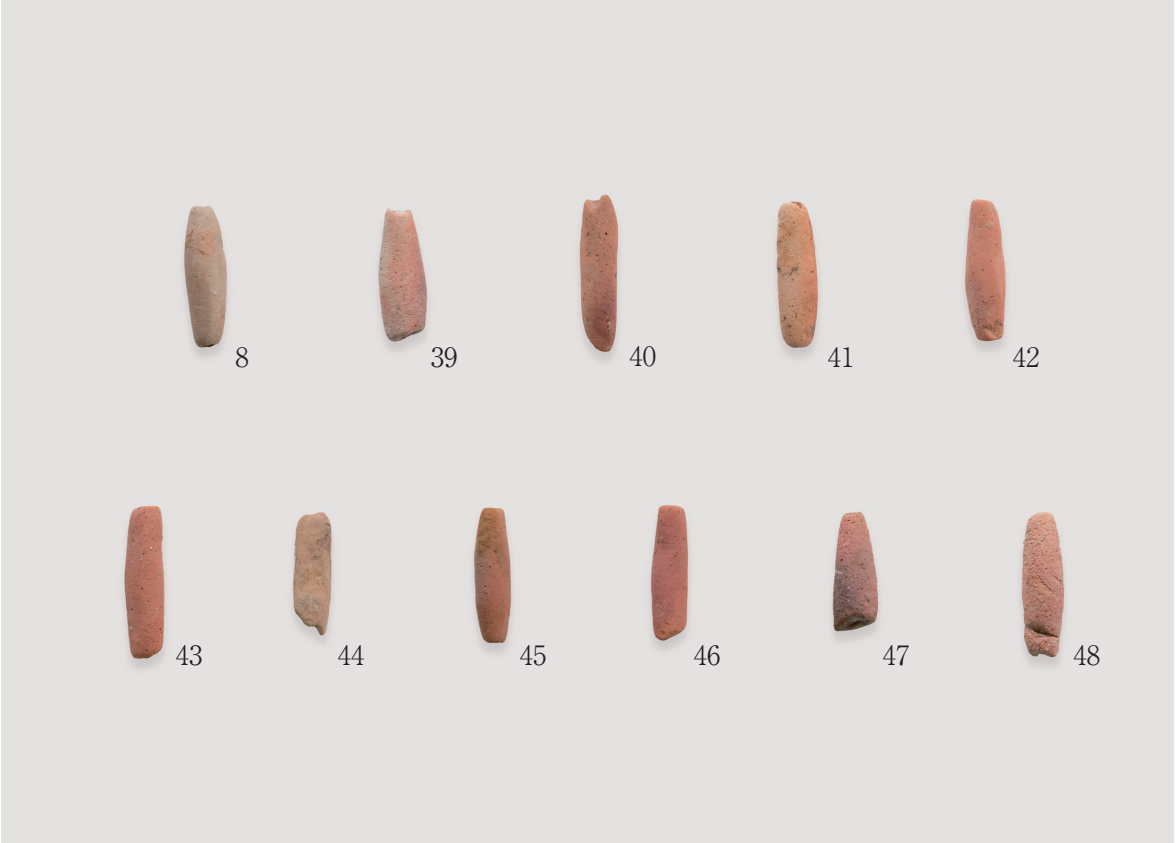
33（外面）

36（内面）

36（外面）

青磁（碗），白磁（碗），備前（甕）

図版12



白磁（皿），古瀬戸（天目茶碗），土製品（土錘）

報告書抄録

ふりがな	くぼたいせき
書名	久保田遺跡
副書名	市道久保田線改良工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書
シリーズ番号	第19集
編著者名	松井喬行
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）
所在地	〒781－5453　高知県香南市香我美町山北1553－1
発行年月日	2022年2月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
久保田遺跡（くぼたいせき）	〒781-5452 高知県（こうちけん） 香南市（こうなんし） 香我美町下分（かがみちょうしもぶん） 3297他	39211	180057	33° 34′ 00″	133° 44′ 24″	2007.5.1 ～ 2007.5.31	200㎡	記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保田遺跡	集落跡	中世	溝　5条 ピット　4個 性格不明遺構　1基 自然流路　1条	弥生土器 土師器 須恵器 土師質土器 瓦質土器 貿易陶磁器 国内産陶器 土製品 石製品	中世の耕作に関連すると考えられる遺構と，その南側において自然流路を検出。自然流路からは土師器を中心に弥生土器片や砥石などが出土した。

要約	久保田遺跡は，香長平野の東端に所在し，北を山北川，南を香宗川が流れる沖積地上に立地する。遺跡の北西には中城跡が存在した標高約30mの小丘陵があり，その南麓には中氏が構えた土居屋敷が存在したとされる。遺物包含層からは主に土師器や瓦質土器，貿易陶磁器などの中世と考えられる遺物が出土した。調査区北側において中世の耕作に関連すると考えられる溝とピットが検出され，南側の一段下がった面において東西方向の自然流路と古代の遺物を伴う性格不明遺構が検出された。自然流路は香宗川の旧河道あるいは流域の湿地に関連するものとみられ，中世以前の時期に流れが存在し，土器を含む砂や礫が流下して埋没・堆積したと考えられる。中世以降の当遺跡周辺は，耕作地として現代まで利用されたと考えられる。

高知県香南市発掘調査報告書第19集

久　保　田　遺　跡

市道久保田線改良工事に伴う発掘調査報告書

2022年2月

発行　高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター
〒781－5453
高知県香南市香我美町山北1553－1
Tel. 0887－54－2296

印刷　半田印刷